

平成 24 年度

県環境学習関連事業の進行管理のための個表

## <事業一覧>

1. 私学経営安定事業(私立学校振興補助金)
2. 階層別研修
3. 体系的な環境学習推進支援事業(幼児自然体験型環境学習)
4. びわ湖の日環境学習推進事業
5. 全国星空継続観察(スターウォッチング・ネットワーク)
6. 「びわ湖の日にびわ湖の恵みをいたごう」推進事業
7. 環境学習センター運営事業
8. 教員研修受け入れ
9. 体験学習・観察会・講座推進事業
10. サテライト博物館
11. 琵琶湖講習
12. 湖西浄化センター施設見学会・バラ園公開
13. 「琵琶湖は今」
14. びわ湖まちかどむらかど環境塾事業
15. マザーレイクフォーラム推進事業
16. 滋賀県中学生水の作文コンクール
17. 近畿の水の源 琵琶湖体感学習ツアー
18. びわこルールキッズ事業
19. 滋賀県・日釣振合同釣大会
20. 低炭素社会づくり学習支援事業
21. エコドライブ推進事業
22. 地球温暖化防止活動推進センター事業
23. 自治振興交付金(エコライフ地域住民活動推進事業)
24. 環境にやさしい買い物推進事業
25. 淡海エコフオスター事業
26. 環境美化活動推進事業
27. 森林環境学習「やまのこ」事業
28. 協働の森づくりの啓発事業「森づくり県民講座」
29. 協働の森づくりの啓発事業「びわ湖水源のもりづくり活動」
30. “緑のダムづくり啓発活動(フクロウ先生の森・守塾)”
31. 朽木いきものふれあいの里管理運営事業
32. 野生鳥獣保護対策事業(愛鳥モデル校愛鳥講演会)
33. 鳥獣保護思想の普及啓発(愛鳥週間ポスターコンクールの実施)
34. 「しがこども体験学校」推進事業
35. 保育所職員指導事業
36. びわ湖環境ビジネスメッセ開催事業
37. 自治振興交付金(たんぼのこ体験事業)
38. みんなが支える環境こだわり農業PR事業
39. 「食べることで、びわ湖を守る。」推進事業
40. 琵琶湖産魚介類食育推進事業
41. 試験研究成果発表・体験会
42. 農業技術研究会
43. 茶業指導所参観デー
44. 農業大学校開放講座
45. 都市漁村青年交流促進事業(マリンカレッジ)
46. 漁民の森づくり
47. 魚を学ぶ体験学習促進事業
48. 豊かな内水面漁業情報発信事業
49. 琵琶湖固有種ワタカで学ぶ南湖再生事業
50. みずすまし構想推進事業
51. 農村地域住民活動支援事業
52. 世代をつなぐ農村まるごと保全向上活動支援事業
53. 棚田保全ネットワーク推進事業
54. 魚のゆりかご水田推進プロジェクト事業
55. エコ交通推進事業
56. 琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業
57. 砂防出前講座
58. びわこ地球市民の森のつどい
59. びわこ地球市民の森(森づくりサポーター活動開催)
60. 家棟川ビオトープ自然観察会
61. 木の岡ビオトープ自然観察会
62. こなん水環境フォーラム
63. 水生生物調査用具の貸出
64. 水生生物調査用具の貸出
65. 流域活動促進支援事業
66. 水生生物調査用具の貸出
67. 水生生物調査用具の貸出
68. 出前講座
69. 早崎内湖再生検討事業
70. 森林環境学習支援事業
71. 浄水場一般開放・施設見学
72. 水道出前講座
73. びわ湖フローティングスクール
74. 環境教育研究協議会
75. 環境教育副読本「あおいびわ湖」等の活用
76. 環境教育モデル校の設置
77. しが環境教育リーディング事業
78. 環境教育講座
79. しが☆まなび☆発見!
80. 淡海生涯カレッジ開設事業
81. 高等学校等開放講座事業
82. 学習情報提供システム整備事業
83. 生涯学習推進事業
84. 「地域の力を学校へ」推進事業
85. 子どもの体験活動の機会と場の充実
86. 自然体験活動指導者養成事業
87. 女性団体活動推進事業
88. 図書資料等購入事業
89. 文化財保存修理受託事業
90. 琵琶湖文化 魅力発信プロジェクト  
(近江水と大地の遺産魅力発信事業)

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                     |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---------------------|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 1                   | 所属名   | 総務部 総務課               |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 私学経営安定事業(私立学校振興補助金) |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | S43                 | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                  | 琵琶湖   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象                | 学校法人  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 1,2,3,4               |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度              | -   | 平成23年度                | -  | 前年比<br>増減額            | -                     |              |
| 事業内容                       | 概要                  | 私立学校を設置する学校法人に対する経常費補助において、滋賀県の自然・文化資産を生かした環境学習等を通じ、滋賀県らしさを身近に感じられる教育活動を行う学校に対し補助を行う。   |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                  | 各学校における質の高い環境教育の実施の誘引となり、もって教育の改革を推進すること、また、滋賀の自然等を生かした教育活動を促進することで、ふるさと滋賀への理解・愛着を深めるきっかけづくりとなること   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無               | ○   |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度                 | 県内の私立学校における環境教育の推進に一定資することができた。<br>補助学校数 (教育改革分)<br>高等学校 2校/10校 補助額60万円<br>中学校 2校/ 5校 補助額60万円<br>小学校 1校/ 1校 補助額30万円<br>その他、傾斜配点補助についても、「淡海ふるさと配分」として、事業採択をしている。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |                     |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                     | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                     | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                     |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 制度を継続していく。          |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 2  | 所属名  | 総務部 政策研修センター          |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 階層別研修                                    |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | —  | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                                       | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象                                     | 県職員<br>(新規採用職員)  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 7                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                   | 178  | 平成23年度                | 206  | 前年比<br>増減額            | ▲ 28                  |              |
| 事業内容                       | 概要                                       | 新規採用職員研修において環境問題に関するテーマを研修内容として組み込む。   |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                                       | 新規採用職員に、滋賀県での環境問題への取組について説明し、理解を深める。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                                       |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                     | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                    | ○  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 達成度                                      | 実施日時 平成24年4月9日 0.5時間 受講者数 107名<br>新採用職員が、滋賀県の環境や県庁内の取組について学び知識を得た。また、研修生の感想には、日常生活の中でも取り組めることがあることに気づいたとの感想がよせられ、環境問題への関心を促せた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 新規採用職員に、滋賀県での環境問題への取組について説明し、理解を深める。     |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 新規採用研修で実施している他の科目と内容が重複しているため来年度からは実施しない |  |                       |  |                       |                       |              |

市内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 3   | 所属名   | 琵琶湖環境部 環境政策課          |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 体系的な環境学習推進支援事業(幼児自然体験型環境学習)   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | プログラム開発               |                       |             |
|                            | 主な対象  | 幼児  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 1,2,3,8               |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 1,837   | 平成23年度                | 4,655  | 前年比<br>増減額            | ▲ 2,818               |             |
| 事業内容                       | 概要  | 幼児の自然体験型環境学習プログラムの普及と、学習会の参加による人材育成を実施することで、幼児期の環境学習の推進を図る。   |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 幼児の自然体験型環境学習会に25園の教諭、保育士が参加する。<br>教諭、保育士の人材育成を図るとともに幼児への自然体験学習の機会の場を設ける。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 1会場の学習会で会場となる園の周辺の園5園(1園で2~3人)程度の出席を想定し、4会場合計で25園を目標とした。  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   | ○   | ○                     | ○  |                       |                       | ○           |
|                            | 達成度   | 学習会には総計41園71人が出席し、13ものプログラムが新たに作成された。<br>また、学習会参加者には、園の周りに自然が少なくても、少ない自然を生かした学習ができる事に気づいたり、園周辺の自然をもっと活かそうという意識の高まりがみられることから、人材育成につながっていると判断できる。<br>また、たくさんの幼稚園や保育所から参加があったことから、環境学習のネットワーク作りにも効果があったと考えられる。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 幼児の自然体験型環境学習では、2日間の日程で学習会を行っており、1日目にフィールドの下見をし、幼児へ何をどのように伝えるかの目的を定め、プログラムを作成する。2日目は実際に自然体験を行い、午後から体験学習のふりかえりを行っている。 |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 学習会の回数を増やして参加しやすくするとともに教育委員会や市町と連携しながら、学習会未参加園に参加を積極的に呼びかけ、引き続き指導者に対し環境学習における指導力の育成に努める。                            |   |                       |  |                       |                       |             |

市内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 4   | 所属名  | 琵琶湖環境部 環境政策課          |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | びわ湖の日環境学習推進事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 24  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 琵琶湖  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象  | 小学生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 400  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            |              |
| 事業内容                       | 概要  | 企業や民間団体等と連携し、児童生徒を対象にびわ湖の日の意義・取組等について理解を深める学びの機会を設ける。                |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 企業やNPO等との協働による「びわ湖の日」の環境学習実施件数<br>年間:7件                              |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 4~5月:1回<br>6~8月:4回<br>9月~翌年3月:2回                                     |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○  |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 「びわ湖の日」を啓発する機会づくりについては、年間6回の実施で概ね目標を達成できた。さらに様々な主体と連携して啓発する機会を増やしたい。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 啓発資材を配布するだけでなく、内容を分かりやすく伝えるとともに、さらに多様な主体と連携して啓発を実施する。 |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 5  | 所属名  | 琵琶湖環境部 環境政策課          |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 全国星空継続観察(スターウォッチング・ネットワーク)   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | S63  | 終了年度   | H24                   |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 空  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象   | 参加団体   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要   | 大気環境保全に関する県民の意識を高めることを目的として、星空観察という身近な方法による大気環境の調査活動を実施する。(主催:環境省)                     |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 年2回星空継続観察を実施する。<br>ただし、当該事業の主催は環境省であり、当課は参加団体からの結果をとりまとめ、環境省へ報告する等の事務を担っている。           |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |  |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度  | 平成24年度夏季調査は5団体、同冬季調査では2団体の登録が得られた。夏季3団体、冬季2団体が観察結果を国へ報告しており、星空観察を通じて大気環境への関心が高まったと考える。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 星空観察を継続することで大気環境の状態変化を感じ取ることができ、観察結果は国においてまとめられ、公表しているので、自身の調査結果と全国の結果を比較することができる。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 主催者の環境省が、平成25年度より、当面の間休止することを決定したため、平成24年度で終了となった。                                 |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 6   | 所属名  | 琵琶湖環境部 環境政策課          |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 「びわ湖の日にびわ湖の恵みをいただこう」推進事業                  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | 食と農  |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |             |
|                            | 主な対象                                      | 県内の小学校、中学校   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3                   |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                    | 0  |                       | 平成23年度   | 6,909                 | 前年比<br>増減額<br>▲ 6,909 |             |
| 事業内容                       | 概要  | びわ湖の日に合わせ、湖魚を県内の学校給食として児童生徒等に提供することについて呼びかける。              |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 県内公立小・中学校(国立および県立学校を含む)の学校給食における「びわ湖の日」を中心とした湖魚料理の提供率:8割以上 |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 学校給食のある県内公立小・中学校数:291校(H23.5.1時点)。対象期間:6/1~7/31)           |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                      | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無                                     | ○  |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○           |
|                            | 達成度                                       | 各市町等への呼びかけの結果、対象となる291校のうち285校(98%)で実施された。(別添アンケート調査結果参照)  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 取組が定着するよう、引き続き呼びかけをするとともに、有用な情報を提供していきたい。 |  |                       |  |                       |                       |             |



庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                            |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|--|----------------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 7   | 所属名  | 琵琶湖環境部 環境学習センター(琵琶湖博物館)    |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 環境学習センター運営事業  |  |                            |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 17  | 終了年度   | -                          |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | その他  |                            | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |             |
|                            | 主な対象  | 主に環境学習実施者  |                            | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8.9                   |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 3,707  |                            | 平成23年度   | 3,737                 | 前年比<br>増減額            | ▲ 30        |
| 事業内容                       | 概要  | 環境学習を推進する拠点の1つとして、県内の環境学習等を促進するため、インターネットを活用した情報提供、環境学習推進員による相談活動、参考図書等の貸出などを行う。               |                            |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 情報提供、相談対応、交流会機会等の提供  |                            |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 体制とニーズに応じて対応   |                            |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発                 | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   |  |                            | ○  | ○                     |                       |             |
|                            | 達成度   | 相談対応249件、メールマガジン発行21回、環境学習ウェブサイト「エコロジー」アクセス158,072件、環境ほっとカフェ開催5件、情報発信や情報提供、交流の場づくりの効果があったと考える。 |                            |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                            |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ<br>○   | 第2段階<br>対策を考える             | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)<br>○  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える)<br>○ | 体験後<br>(ふりかえり)<br>○  | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 情報提供等をしながら関心を持ってもらっている。<br>自然と人とのつながり、よりよい関係を考えることを体験のテーマにしている。 |  |                            |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | NPOや地域団体、企業、施設等と連携しながら、情報提供・発信、交流の場づくりが出来るネットワーク力の維持強化を図っていきたい。 |  |                            |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 8   | 所属名   | 琵琶湖環境部 琵琶湖博物館         |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 教員研修受け入れ  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 8   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | 琵琶湖   |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |             |
|                            | 主な対象  | 教職員   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 9                     |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 51  |                       | 平成23年度   | 58                    | 前年比<br>増減額<br>▲7      |             |
| 事業内容                       | 概要  | 教員の身近な自然への興味関心を高めるとともに、より高度な博物館利用を促すことを目的として、教職員への研修を実施する。  |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 初任者研修4回、活用講座3回、計7回実施予定  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 体制とニーズに応じて対応  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   | ○   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 達成度   | 初任者研修4回、活用講座3回、計7回実施した。初任者研修では、プランクトン採集などを通じて琵琶湖の生きものについての学習を行い、経験者にはより専門的な内容を学芸員から聞くことができ好評であった。加えて、博物館の概要を知ること、学校での今後の来館にもつながることが期待できる。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
|                            |   | ○   | ○                     | ○  | ○                     |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 学校での授業に活かしてもらえることを目的にして、教員向けの研修を実施している。                     |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 初任者研修できた方が、経験者研修で来られることも想定されるので、実施する実習内容が重ならないように留意する必要がある。 |   |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 9   | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖博物館         |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 体験学習・観察会・講座推進事業   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 8   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | 琵琶湖  |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象  | 来館の児童生徒<br>一般団体  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |             |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度  | 564  | 平成23年度                | 759  | 前年比増減額                | ▲ 195                 |             |
| 事業内容                       | 概要  | 子どもたちの身近な自然や暮らしへの興味関心を高め、フィールドへ誘うことを目的として、来館する児童・生徒、一般団体に対する体験学習や観察会・講座を実施するほか、体験学習プログラムの開発を行う。  |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 観察会13回、講座14回、体験教室10回、わくわく探検隊19回、計49回開催予定   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 体制とニーズに応じて対応   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○           |
|                            | 達成度   | 実施結果 観察会15回、講座13回、里山体験教室4回、わくわく探検隊19回<br>様々な分野の観察会や講座で年間1300名以上の参加者があった。アンケートでは、満足したという回答がほとんどで、次に参加したい内容なども多く回答があった。地域との共催も多く、人材育成から場作り、情報提供まで効果があったといえる。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      | 博物館の設置理念である「湖と人間とのよりよい共存関係を探る」ことを大きなテーマとして、個々の観察会などを実施している。                 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 新たな観察会も増やし、内容をより充実させ多様な分野に対応するものとした。また、新しいグループとの共催も含め、より地域と連携した場や機会づくりを目指す。 |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 10   | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖博物館         |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | サテライト博物館   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 19   | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 琵琶湖  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象   | 県内学校   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,8,9                 |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 78   |                       | 平成23年度   | 290                   | 前年比<br>増減額 ▲ 212      |              |
| 事業内容                       | 概要   | 学校で展示会を開催し、教育課程に沿った環境学習を進めるとともに、教員の研修機会を設ける。また学校を含めた地域の環境リーダーを育成する。          |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 2ヶ所で継続実施予定   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   | 体制とニーズに応じて対応   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |  |                       | ○  | ○                     |                       | ○            |
|                            | 達成度  | 予定通り、2カ所で実施できた。教員研修や学芸員による出前授業など活発な活動ができた。活用方法の説明も行い、展開例のさまざまなケースについて相談を受けた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
|                            |  | ○  | ○                     | ○  |                       |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 博物館の設置理念である「湖と人間とのよりよい共存関係を探る」ことを、サテライト博物館においてもテーマとして実施している。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 空き教室の減少など、今後の継続が難しくなってきている。活動の場を学校に限らない方向で継続していく。            |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 11   | 所属名   | 琵琶湖環境部 琵琶湖環境科学研究センター  |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 琵琶湖講習  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 17   | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 琵琶湖   |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象   | 環境活動を行うNPO等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0   |                       | 平成23年度   | 0 前年比<br>増減額 0        |                       |              |
| 事業内容                       | 概要   | 環境活動を行うNPO等の依頼に応じ、実施している試験研究などから得られた知見に基づき、研究職員が講習を行う。  |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 事前に依頼者のニーズに合致したテーマを選定できるよう調整を行う等の対応をして、依頼者の満足度を高めるよう努める。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  | ○   |                       |  | ○                     |                       | ○            |
|                            | 達成度  | 教育機関、企業やNPO等からのニーズを受け、琵琶湖の水環境や放射性物質の拡散予測、持続可能社会の構築等のテーマで知見を提供した。受講者の今後の環境保全活動につなげていただくことが期待される。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ<br>○  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 市民団体からの依頼に基づいて低炭素型の地域社会について講義を行い、関心を持っていただくことにつながった。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | センターの調査研究を得た知見を還元する取組として、平成25年度も継続して実施する。            |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 12   | 所属名   | 琵琶湖環境部 湖南中部流域下水道事務所   |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 湖西浄化センター施設見学会・バラ園公開  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 23   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 水環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象   | 一般・団体   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 144   |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 144         |
| 事業内容                       | 概要   | 湖西浄化センターの施設を見学してもらい下水道について理解を深めていただく。県内の団体の方は年間を通して申込みがあれば実施し、一般の方はバラの開花時期である5月・10月の指定日に実施している。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 使用後の水がどのような仕組みできれいな水に生まれ変わるのか実際に見学してもらうとともに、下水道の役割を説明して下水道への理解と関心を深める。                          |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  | ○                     |                       | ○           |
|                            | 達成度  | 下水処理水を用いて栽培したバラを見に訪れてもらうことで、ここが下水処理場であり、琵琶湖の環境保持に役立っていることを知らせることができた。                           |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | バラの挿し木教室の実施  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 来場者数は満足いくものであったので、バラ園目当ての来場客に対し、下水処理の大切さ、大変さを効果的に訴える手法を考える必要がある。 |   |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 13   | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課         |  |                       |                       |
| 事業名                        | 「琵琶湖は今」  |  |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 20   | 終了年度   | 0                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野   | 琵琶湖  |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |
|                            | 主な対象   | 県民、学校、自治会、NPO等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,3,4,6,7             |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度   | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比増減額<br>0           |
| 事業内容                       | 概要   | 琵琶湖と人との共生を図り、琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継いでいくため、県民等に対して滋賀の環境や琵琶湖の保全について解説し、県民等の琵琶湖の保全に対する理解を深めていただく。                                 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標   | 県民等に琵琶湖の保全への理解を深めていただくため、学校支援メニューフェアなどにおいて積極的に本事業を広くPRする。  |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠   | 本事業は、団体・個人などからの要請により実施する出前講座であり、数値目標の設定は難しい。   |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |  |                       |  | ○                     | ○                     |
|                            | 達成度  | 実施結果: 18回 参加者: 900名<br>琵琶湖の置かれている状況や、琵琶湖を守り引き継いでいく取組、また、そのために自分のできるかを知っていただくことにより、これからの琵琶湖との関わり方について、見つめ直していただくきっかけとなった。 |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ<br>○   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      | 滋賀の環境や琵琶湖の保全について解説し、県民等の琵琶湖の保全に対する理解を深めていただくための出前講座を開催した。                |  |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 琵琶湖の総合保全を進めるためには、多くの県民の理解と協力が必要であることから、県民の目(興味)が琵琶湖に向くよう、継続して事業に取り組んでいく。 |  |                       |  |                       |                       |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 14  | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課         |  |                       |                       |
| 事業名                        | びわ湖まちかどむらかど環境塾事業  |  |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |
|                            | 主な対象  | 自治会等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 6                     |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 360  |                       | 平成23年度   | 360                   | 前年比<br>増減額            |
| 事業内容                       | 概要  | より多くの県民に『マザーレイク21計画』とは何か、琵琶湖の総合保全とは何かについて知ってもらい、琵琶湖をもう一度見つめ直し、暮らしを琵琶湖に近づけるため、身近な生活の場に入り込み、環境保全のネットワークの輪を広げる『びわ湖まちかどむらかど環境塾』を開催する。              |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標  | 『びわ湖まちかどむらかど環境塾』を県内各地で実施。<br>10地区/年  |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠  | 琵琶湖総合保全整備計画<br><a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/ml21/ml21keikaku.html">http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/ml21/ml21keikaku.html</a> |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  |                       |  | ○                     | ○                     |
|                            | 達成度   | 実施結果: 2回 参加者: 74名<br>琵琶湖の現状とともにマザーレイク21計画の趣旨について説明を行ったが、参加者それぞれがこれからの琵琶湖に対してどう向き合い、取り組んでいくかの意識づけができたと考えている。                                    |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | より多くの県民に『マザーレイク21計画』とは何か、琵琶湖の総合保全とは何かについて知ってもらい、琵琶湖をもう一度見つめ直し、暮らしを琵琶湖に近づけるため、『びわ湖まちかどむらかど環境塾』を開催した。 |  |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 環境や琵琶湖に対して興味のない県民をいかにして取り込むかが課題であることから、地元積極的に入り込んで、広くマザーレイク21計画を普及啓発していく。                           |  |                       |  |                       |                       |



市内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 15  | 所属名   | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課         |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | マザーレイクフォーラム推進事業   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 琵琶湖淀川流域に関わる各<br>主体  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 1,500   | 平成23年度                | 2,970  | 前年比<br>増減額            | ▲ 1,470               |              |
| 事業内容                       | 概要  | 県民、NPO、事業者など多様な主体が分野を超えて交流しあう場づくりを行うとともに、計画の評価・提言を行う場となるびわコミ会議を開催する。  |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | マザーレイクフォーラムにおいて計画の進行管理を行う。<br>《マザーレイクフォーラム参加団体 200団体/平成26年度》  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 琵琶湖総合保全整備計画<br><a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/ml21/ml21keikaku.html">http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/ml21/ml21keikaku.html</a>  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 平成24年9月16日(日)にマザーレイクフォーラムびわコミ会議(円卓会議より改称)を開催し、85団体から154人の参加があった。「さかなの旅、ふたたび」をテーマにワークショップを行うとともに、各団体のブースの設置により団体間のつながりの促進に努めた。参加者全員がコミットメントを行うことにより、それぞれが琵琶湖を守る主体であることを改めて認識いただいたと考える。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 毎年、8～9月頃にびわコミ会議を定期的で開催し、より多くの団体、個人に参加いただき、意見を施策に反映していけるよう取り組んでいく。 |   |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--------------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 16                             | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課         |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 滋賀県中学生水の作文コンクール                |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | S59                            | 終了年度   | 0                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                             | 水環境  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象                           | 県内中学生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 3                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                         | 100  |                       | 平成23年度   | 101                   | 前年比<br>増減額            | ▲ 1          |
| 事業内容                       | 概要                             | 広く水に対する関心を高め、水資源の重要性などについて理解を深めてもらうことを目的に、県内中学生を対象に「水について考える」をテーマに作文コンクールを実施。                      |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                             | 作品応募により一層水資源の重要性などについて理解が深まると考えており、引き続き中学校への広報を積極的に行い、当該コンクールの周知を図っていく。                            |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                             | 当該コンクールを通じて、県内の中学生一人ひとりが水資源の重要性などについて理解を深めることが事業の主眼であり、数値目標を設定するのは困難。                              |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                           | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                          |  |                       |  |                       |                       | ○            |
|                            | 達成度                            | 県内の中学生から、47都道府県中6番目の多さとなる770編の作品応募があった。(全国平均 358編)<br>多くの中学生に、琵琶湖の価値や水の大切さについて改めて考えていただく貴重な機会となった。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                                | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                                |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、中学生への広報に力を入れながら、コンクールを実施。 |  |                       |  |                       |                       |              |

市内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                          |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 17                       | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課         |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 近畿の水の源 琵琶湖体感学習ツアー        |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 24                       | 終了年度   | 24                    |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野                       | 琵琶湖  |                       | 主たる施策体系  | 普及啓発                  |                       |             |
|                            | 主な対象                     | 滋賀・京阪神とその周辺地域の小学生と保護者  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2.5                   |                       |             |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度                   | 0  | 平成23年度                | 0  | 前年比増減額                | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要                       | ローソンの近畿2府4県約1900店舗で平成23年8月に展開された「琵琶湖を美しくプロジェクト」の売上金の一部の寄付を受け、琵琶湖を体験し、「飲水思源」の心を育む琵琶湖体感学習ツアーを、滋賀・京阪神とその周辺地域の小学生と保護者を対象として実施する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標                       | 滋賀や京阪神等の小学生と保護者に水源である琵琶湖の重要性を学んでもらうことは大切であるため、様々な機会において広報啓発を行っていく。   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠                       | 企業の社会貢献活動としてローソンから寄付を受けて行う事業であるため数値目標等は困難。   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                     | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無                    |  |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○           |
|                            | 達成度                      | 平成24年4月21日(土)に、86名が参加し実施した。高島市針江地区、琵琶湖博物館において琵琶湖や水環境についての体感学習を行い、源流域である琵琶湖についての理解を深めてもらった。                                   |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                          |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                          | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                          | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      |                          |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 下流域の人に琵琶湖の保全への理解を深めてもらう。 |  |                       |  |                       |                       |             |

市内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                        |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|------------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 18  | 所属名   | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課(レジャー対策室) |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | びわこルールキッズ事業   |   |                        |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 20  | 終了年度  | -                      |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | いきもの  |                        | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県内外の小中学生  |                        | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,5                 |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 400   | 平成23年度                 | 400  | 前年比<br>増減額            | 0                     |              |
| 事業内容                       | 概要  | <p>県内外の小中学生を対象に、夏休み期間中に外来魚のノーリリース(釣り上げた魚の再放流禁止)に協力してもらえる『びわこルールキッズ』を募集し、外来魚の釣り上げを通じて琵琶湖の生態系の現状を知ってもらい、環境問題への意識の啓発とノーリリースの周知・定着を図る。</p> <p>・7月21日(土)・・・大津市浜大津港にてびわこルールキッズの登録会を兼ねた外来魚駆除釣り大会開催</p> <p>・9月16日(日)・・・びわこルールキッズ報告者の中から優秀な成績を収めたキッズに対し知事表彰状を授与。</p> |                        |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | <p>琵琶湖の生態系の現状を知ってもらい、環境問題への意識の啓発とノーリリースの周知・定着を図る。</p> <p>《びわこルールキッズの登録者数:1,000人/年》</p>  |                        |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | <p>琵琶湖総合保全整備計画<br/> <a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/ml21/ml21keikaku.html">http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/ml21/ml21keikaku.html</a></p>   |                        |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発             | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                        | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | <p>夏休み期間中、全国の小中学生1000人を目標に、外来魚の釣り上げに協力いただくびわこルールキッズを募集し、優秀なキッズには知事から表彰を行うなど、釣りを通じて環境学習を深めるきっかけ作りをしている。事業実施に際しては、民間企業等から協賛・協力を、また琵琶湖淀川流域府県(京都府、大阪府、兵庫県)から後援を得て、実施しており、参加者も家族や団体での参加が増加傾向にある。平成24年度は741人の参加があった。</p>  |                        |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                        |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える         | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える)  | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | <p>夏休み期間中に、外来魚の釣り上げとノーリリース(再放流禁止)に協力することで、琵琶湖の生態系の現状について認識し、環境問題を考える機会となる。そしてその後のノーリリースの周知、定着を図る。</p> |   |                        |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | <p>民間企業等から引き続き、協賛・協力を得て、実施していくとともに、小、中学校を卒業してからも引き続き外来魚の釣り上げをしてもらえるよう啓発を行う。</p>                       |   |                        |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                 |  |                        |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---------------------------------|--|------------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 19                              | 所属名  | 琵琶湖環境部 琵琶湖政策課(レジャー対策室) |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 滋賀県・日釣振合同釣大会                    |  |                        |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 23                              | 終了年度   | 0                      |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                              | 琵琶湖  |                        | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象                            | 一般   |                        | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                          | 0  | 平成23年度                 | 1,000  | 前年比<br>増減額            | ▲ 1,000               |              |
| 事業内容                       | 概要                              | 釣り団体との共同開催により、参加者を募り、外来魚で育てた野菜等を食べてもらい、琵琶湖ルールの普及と琵琶湖の生態系に対する理解を深める機会とする。   |                        |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                              | 琵琶湖の生態系の現状を知ってもらい、環境問題への意識の啓発とノーリリースの周知・定着を図る。   |                        |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                              |  |                        |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                            | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発             | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                           |  |                        | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度                             | 業界団体と、1匹でも多くの外来魚を釣り上げていただく外来魚有効利用釣り大会を昨年度に引き続き、共同で開催した。参加者は釣り指導を気軽に受けることができ、さらにブルーギルのフライや外来魚の魚粉で育てた野菜もおいしいと好評であった。 |                        |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                 |  |                        |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                 | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える         | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                                 | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える)  | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                                 |  |                        |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き共同開催を行うか、県単独で行うか検討のうえ、開催する。 |  |                        |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 20  | 所属名  | 琵琶湖環境部 温暖化対策課         |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 低炭素社会づくり学習支援事業  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 地球温暖化防止  |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 小中学生(学校)<br>地域住民(地域)   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2, 3, 6               |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 2,116  | 平成23年度                | 2,978  | 前年比<br>増減額            | ▲ 862                 |              |
| 事業内容                       | 概要  | <p>学校や地域において低炭素社会の実現に向けた環境学習の推進を図るため、地球温暖化防止活動推進員等が学校や地域に出向き学習を進める。</p> <p>・県内実施校の「低炭素社会づくり授業」 アドバイザー派遣 50回<br/>・地域団体による地球温暖化対策等の学習 アドバイザー派遣 50回</p> |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | <p>学習の実施回数</p> <p>・学校 50回<br/>・地域 50回</p>  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | <p>事業初年度のH23の計画にあたり、県下小学校数236校の約1/5である50校を目標数値とし計画。地域の計画数も学校と同程度を目標数値とし計画。</p>   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | <p>計画回数100回(学校50回地域50回)に対して97回(学校48回地域49回)の出前講座を実施した。節電意識の高まる中、受講者のニーズに合った講座が実施できた。</p> <p>※当事業で実施の出前講座97回その他、他事業として38回の節電フェアを県内で実施。</p>             |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○            |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | <p>地球温暖化問題について理解を深め、各家庭での省エネ・節電行動の実践・普及につなげるため、地球温暖化防止活動推進員等が学校や地域に出向き、ワークショップ形式等でわかりやすく授業・講座を実施している。</p> |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | <p>節電意識の高まりや、省エネ行動の実践・定着をはじめとした中長期的なライフスタイルの転換による低炭素社会づくりを推進するために講座の実施回数を増やして事業を継続する。</p>                 |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 21  | 所属名  | 琵琶湖環境部 温暖化対策課         |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | エコドライブ推進事業  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 地球温暖化防止  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県民、事業者   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 23   | 平成23年度                | 623  | 前年比<br>増減額            | ▲ 600                 |              |
| 事業内容                       | 概要  | 自動車からの温室効果ガス排出を抑制するため、県と運輸関連団体が連携し、啓発や講習会など県民や事業者のエコドライブの推進に向けた取組を行う。  |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 緩やかな発進や加減速の少ない運転、アイドリング・ストップの励行など、自動車等からの温室効果ガスの排出量を抑制するエコドライブの普及・啓発に努める。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 各個人や事業所における、運転時のエコドライブ実施状況の把握が困難であるため、数値目標は設けない。   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 運輸部門の関係団体と連携し、環境負荷の低減等を図るためにトラックドライバーを対象としたエコ・セーフティドライブコンテストを開催するとともに、事業者や県民向けにエコドライブの実技講習を実施した。<br><br>エコドライブ推進のためのポイントや運転技術についての理解を深める機会を提供することができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○            |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 運輸部門からの温室効果ガス排出対策として、燃費向上につながる運転技術等を理解し身につけるための実技講習会を開催し、各事業所や地域におけるエコドライブの実践・普及を進めている。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、運輸関係団体との協力・連携により、エコドライブの実技講習会の開催や啓発等、取組の推進を図る。                                     |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |         |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---------|
| NO                         | 22  | 所属名   | 琵琶湖環境部 温暖化対策課         |  |                       |                       |         |
| 事業名                        | 地球温暖化防止活動推進センター事業   |   |                       |  |                       |                       |         |
| 開始年度                       | 12  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |         |
| 分類                         | 分野  | 地球温暖化防止   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |         |
|                            | 主な対象  | 県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |         |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 11,662  |                       | 平成23年度   | 5,800                 | 前年比<br>増減額            | 5,862   |
| 事業内容                       | 概要  | 環境意識はあるものの行動に移せていない県民に対し、インターネット上で楽しみながら簡単にCO2削減に取り組めるプログラム「みるエコおうち」を提供し、家族で実践行動に取り組んでもらう。また、地域で低炭素社会づくり出前講座等を実施する地球温暖化防止活動推進員の資質向上のための研修を行う。 |                       |  |                       |                       |         |
| 事業目標                       | 目標  | 【みるエコおうち】<br>取組世帯数 10,000世帯〔平成26年度〕<br>【地球温暖化防止活動推進員に対する研修】<br>推進員の資質向上を図る。   |                       |  |                       |                       |         |
|                            | 根拠  | 【みるエコおうち】<br>知事マニフェストの目標値<br>県内の約2%の世帯に普及していることを目標とする。  |                       |  |                       |                       |         |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発 |
|                            | 効果の有無   | ○   | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○       |
|                            | 達成度   | みるエコおうちについては取組世帯数10,000世帯に対して、2,463世帯(平成25年3月末時点)。推進員に対する研修については、7回の研修を実施(定期4回・臨時3回)し、積極的な研修実施ができた。   |                       |  |                       |                       | ☆(未達成)  |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |         |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○       |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |         |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 地域で低炭素社会づくり出前講座等を実施する地球温暖化防止活動推進員の資質向上のための研修を行った。また、インターネット上で楽しみながら簡単にCO2削減に取り組めるプログラム「みるエコおうち」を提供した。 |   |                       |  |                       |                       |         |
| 今後の課題・方向性                  | 家庭でのCO2削減に向けて、推進員の研修を行うとともに、節電の取り組みの呼びかけ等をあわせて「みるエコおうち」の提供をすすめる。                                      |   |                       |  |                       |                       |         |



## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 23  | 所属名  | 琵琶湖環境部 循環社会推進課        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 自治振興交付金(エコライフ地域住民活動推進事業)  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 21  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 住民組織   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 6                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | -  |                       | 平成23年度   | -                     | 前年比<br>増減額            | -            |
| 事業内容                       | 概要  | 住民組織が中心となって実施するごみ減量・リサイクル、水環境保全、地球温暖化防止などのライフスタイルの変革につながる実践活動および意識啓発活動に要する経費に対して市町へ交付金を交付する。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 市町や地域の自治会等が行うごみ減量・リサイクル等の実践活動および意識啓発活動等について、市町からの申請に基づき60万円を上限として補助を行う。                      |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 各市町が独自に様々な事業を行っており、各事業を総括した数値目標等は定めていない。   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○  |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 14市町から14件の申請があり、総額3,623,400円の支援を行った。支援により、市町ではごみ減量や水環境保全、地球温暖化防止、意識啓発活動といった幅広い分野で事業が行われた。    |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | エコライフ地域住民活動推進事業は、各市町において実施されているごみ減量や水環境保全、地球温暖化防止、啓発活動といった幅広い分野の活動を支援している事業であるため、項目ごとに評価することは困難 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 今後も引き続き市町への支援を行っていく。  |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 24   | 所属名  | 琵琶湖環境部 循環社会推進課        |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 環境にやさしい買い物推進事業   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 15   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 廃棄物・リサイクル  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |             |
|                            | 主な対象   | 県民、事業者   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 869  |                       | 平成23年度   | 868                   | 前年比<br>増減額            | 1           |
| 事業内容                       | 概要   | ライフスタイルや社会のしきみを環境への負荷の少ないものへ転換していくため、「買い物」という誰もが関わりのある身近な行動からの取組を進める。(店頭啓発、店内での啓発イベント実施)   |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施<br/>啓発イベント 店頭啓発： 県内小売店20店舗</li> <li>○ 買い物ごみ減量推進フォーラムしがの開催<br/>全体会議： 2回程度</li> </ul> |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | キャンペーンはフォーラム参加事業者20社各1店舗を目安に計画   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |  |                       |  |                       |                       | ○           |
|                            | 達成度  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・店頭啓発を29店舗で実施(2月16日～3月30日)</li> <li>・フォーラムを3回開催</li> </ul>  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 環境への負荷を低減するためライフスタイルの転換を目指し、「買い物」という日常の行動におけるマイバッグ持参やグリーン購入等の実践を呼びかけている。 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き買い物キャンペーンをとおり、環境に負荷の少ない社会をめざす。                                       |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 25                                       | 所属名  | 琵琶湖環境部 循環社会推進課        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 淡海エコフオスター事業                              |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 12                                       | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                                       | 廃棄物・リサイクル  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象                                     | 住民団体、<br>企業団体等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                   | 1,272  |                       | 平成23年度   | 1,665                 | 前年比<br>増減額            | ▲ 393        |
| 事業内容                       | 概要                                       | 環境美化に対する県民等の意識の高揚を図るとともに、ごみの散乱を防止するため、ボランティア団体に、定期的・継続的に道路・河川・湖岸等の公共的場所で、美化清掃活動を行っていただく。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                                       | エコフオスター活動に参加いただくことにより、参加者の環境に対する意識の向上を図る。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                                       |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                     | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                    | ○  |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度                                      | 登録団体には愛情と責任を持って区域の美化活動に取り組んでいただいている。エコフオスター通信の発行等の広報啓発により、新規13団体に登録をいただいた。               |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 登録団体数は減少傾向にあり、継続して活動していただける方策を検討する必要がある。 |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 26  | 所属名  | 琵琶湖環境部 循環社会推進課        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 環境美化活動推進事業                                      |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | s46   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 廃棄物・リサイクル  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県民、<br>美しい湖国をつくる会  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 4,732  |                       | 平成23年度   | 4,732                 | 前年比<br>増減額            |              |
| 事業内容                       | 概要  | ごみゼロの日、びわ湖の日および12月1日の、年3度の環境美化の日それぞれにおいて県下一斉清掃運動を実施、および「美しい湖国をつくる会」に対して補助する。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 県下一斉清掃運動に参加いただくことにより、参加者の環境に対する意識の向上を図る。                                     |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 平成24年度は225千人の方々に参加いただき、1,388トンのごみを回収していただいた。活動は定着しており、参加者の環境美化に対する意識の高揚が図れた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 参加者の固定化、高齢化を指摘されており、新たな層、特に若年層に参加を呼びかけていく必要がある。 |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 27   | 所属名  | 琵琶湖環境部 森林政策課          |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 森林環境学習「やまのこ」事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 19   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 森林・里山  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象   | 県内小学校4年生児童   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2.9                   |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 108,578  |                       | 平成23年度   | 108,604               | 前年比<br>増減額            | ▲ 26         |
| 事業内容                       | 概要   | 森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、学校教育の一環として、県内小学校4年生を対象に、森林体験交流施設やその周辺の森林を使った体験型の学習を展開する。                                   |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 森林・林業への理解と関心を深めるとともに、人と豊かにかかわる力を育む。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度  | ・参加学校数243校<br>・教員研修5回、226名参加<br>・専任指導員研修3回<br>受入施設で児童に環境学習プログラムを提供し、学習の機会を提供した。また、教員研修、専任指導員研修により人材の育成に取り組むとともに、事業紹介など情報の提供を行った。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 受入施設での体験学習の前に、学校で事前学習に取り組んでいる。体験学習では、林業の生業としての役割についても勉強していただいており、学校での事後学習で一連の学習を振り返ることとなっている。  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 森林環境学習のねらいに応じた学習プログラムの一層の充実が必要であり、教員や専任指導員の指導力の向上をはかるため、研修の内容の一層の充実を図る必要がある。また、教員、専任指導員および地域サポーター等の連携を強化することや主体的な活動へと展開していくことが課題である。 |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |         |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---------|
| NO                         | 28   | 所属名   | 琵琶湖環境部 森林政策課          |  |                       |                       |         |
| 事業名                        | 協働の森づくりの啓発事業「森づくり県民講座」                             |   |                       |  |                       |                       |         |
| 開始年度                       | 19   | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |         |
| 分類                         | 分野   | 森林・里山   |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |         |
|                            | 主な対象   | 一般県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       |                       | 8,9     |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 610   |                       | 平成23年度   | 590                   | 前年比<br>増減額            | 20      |
| 事業内容                       | 概要   | 森林の持つ多面的機能を高度に発揮させる森林づくりを県民全体で取り組んでいくという気運を高めるため、一般県民等に対して、森林の知識及び森づくり活動をする上での知識を得る機会を提供する。     |                       |  |                       |                       |         |
| 事業目標                       | 目標   | 県民の自発的な森づくりへの参画を促すため、森づくりの基本から応用までの講座を開催する。   |                       |  |                       |                       |         |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |         |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発 |
|                            | 効果の有無  | ○   |                       | ○  | ○                     |                       | ○       |
|                            | 達成度  | 入門編、中級編、上級編に分け、計6回の研修を実施し、講義と実習を組み合わせた参加型のプログラムを提供することで、県民に学びの場を提供し、森づくり活動に役立つ技術・知識を提供することができた。 |                       |  |                       |                       |         |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |         |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |         |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |         |
|                            |  | ○   | ○                     | ○  | ○                     |                       |         |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 里山や林業など人と自然の関わりについて学び、森づくり活動などで取得した知見を生かしていただいている。 |   |                       |  |                       |                       |         |
| 今後の課題・方向性                  | 今後は森林・林業現場で役立つような実践的なプログラム内容で実施する。                 |   |                       |  |                       |                       |         |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 29  | 所属名   | 琵琶湖環境部 森林政策課          |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 協働の森づくりの啓発事業「びわ湖水源のもりづくり活動」   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 18  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 森林・里山   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象  | 一般県民<br>森づくり活動団体<br>下流府県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 2,355   | 平成23年度                | 1,531  | 前年比<br>増減額            | 824                   |              |
| 事業内容                       | 概要  | 森林の持つ多面的機能を高度に発揮させる森林づくりを県民全体で取り組んでいくという気運を高めるため、一般県民等が森林の現状を知ることや森林整備に関わる機会等を提供する。また、「琵琶湖森林づくりサポート事業」では『山門水源の森』において、森林体験ツアー等のイベントを開催することにより、淀川流域を含む上下流連携や、企業等多様な主体による森づくりへの機運を醸成し、協働の森づくりの取り組みを促進する。   |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 各事務所6地区で実施し、一般県民等が森林の現状を知ることや森林整備に関わる機会等を提供する。また、「琵琶湖森林づくりサポート事業」では、琵琶湖の水源である森林づくりの重要性を、県内にとどまらず琵琶湖淀川流域圏まで理解を広げていく取り組みを進める。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 各事務所6地区で2回ずつイベントを実施し、一般県民等が森林の現状を知ることや森林整備に関わる機会等を提供することができた。また、県だけではなく市町、ボランティア団体などと共催・協力で実施している事例も見られた。<br>(9市町で実施 参加者総数 2303人)<br>「琵琶湖森林づくりサポート事業」山門水源の森 現地交流会<br>8月4日に山門水源の森および西浅井文化ホールにて、森林体験ツアー・講演を実施した。多くの参加者が、森の重要性を学び、森林保全作業について理解を深めることができた。県内をはじめ、大阪府や京都府などの琵琶湖・淀川流域からの参加者も得ることができた。<br>(参加者数128人) |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 森林散策や森づくり活動体験を通して、森林の現状や重要性の普及啓発を行っている。   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 平成18年度からの事業実施により、県内各地の市町、ボランティア団体等による森づくり活動が進んできたことから、平成25年度からは、市町等が主体で実施できるよう補助事業で実施する。「琵琶湖森林づくりサポート事業」は、引き続き実施していく。 |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |         |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---------|
| NO                         | 30   | 所属名  | 琵琶湖環境部 森林政策課 森林保全課    |  |                       |                       |         |
| 事業名                        | 緑のダムづくり啓発活動(フクロウ先生の森・守塾)                       |  |                       |  |                       |                       |         |
| 開始年度                       | 22   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |         |
| 分類                         | 分野   | 森林・里山  |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |         |
|                            | 主な対象   | 小学生<br>中学生<br>一般県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2.3.5.6               |                       |         |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0       |
| 事業内容                       | 概要   | <p>自助共助による防災対策の推進や、緑のダムづくりによる防災対策がいかに重要であるかを地域へ普及するとともに、林野公共事業の推進が本県の環境・防災対策上いかに重要な位置づけにあるかを県民に向け発信していく。</p> <p>(1)がんばれフクロウ君塾・・次代を担う子どもたちへ！<br/>次代を担う子どもたちに、「緑のダムづくり」が環境や地域を守る上でいかに大切かを、啓発模型やクイズをつうじて学んでもらう。</p> <p>(2)森・守講座・・・・地域でのもりづくりの推進のために！<br/>間伐の重要性や自助共助による防災対策の推進を啓発するとともに、地域において関心のある「緑のダムづくり」施策等を紹介する。</p> |                       |  |                       |                       |         |
| 事業目標                       | 目標   | 琵琶湖水源域に緑のダムを造成することが、自然環境に優しく、災害防備上の効果が高いことを、子どもたちや地域に対して行う。<br>(目標回数:年間5回)   |                       |  |                       |                       |         |
|                            | 根拠   |  |                       |  |                       |                       |         |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発 |
|                            | 効果の有無  | ○  |                       | ○  | ○                     |                       | ○       |
|                            | 年間 12回開催                                       | <p>小学生、中学生及び地域住民が普段見ている森林の実態および、木を切ること(間伐)により森林が保全されることを知っていただくことにより、森林整備の重要性の普及に効果があったと考えられる。また、ラジオにて事業を行い多くの方々に普及することが出来た。</p>   |                       |  |                       |                       | 達成度     |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |         |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |         |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |         |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 森林の働きや治山事業の紹介により、森林保全に対する興味への足がかりの場を提供している     |  |                       |  |                       |                       |         |
| 今後の課題・方向性                  | 県内の多くの子ども達に森林への興味を持ってもらえるよう出前講座などの機会を増やしていきたい。 |  |                       |  |                       |                       |         |



庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 31                                     | 所属名  | 琵琶湖環境部 自然環境保全課        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 朽木いきものふれあいの里管理運営事業                     |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 4                                      | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                                     | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象                                   | 一般   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                 | 18,200   |                       | 平成23年度   | 18,200                | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要                                     | 自然とふれあう機会を提供することにより自然環境保全意識を高めるため、自然観察会・里山保全活動・幼児の体験的環境学習指導者講習会、広報紙の発行、施設管理等を行う。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                                     | 事業内容を充実させて、自然とふれあう機会の提供を行う。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                                     |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                  |  |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度                                    | 年間の様々な体験プログラムを通じて、多くの参加者に自然体験の機会を提供できた   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○                                      | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 年間の様々な体験プログラムを通じて、多くの参加者に自然体験の機会を提供できた |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、多くの方に自然とのふれあいの機会を提供する。            |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 32  | 所属名  | 琵琶湖環境部 自然環境保全課        |  |                       |                       |
| 事業名                        | 野生鳥獣保護対策事業(愛鳥モデル校愛鳥講演会)                           |  |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 11  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野  | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | プログラム開発               |                       |
|                            | 主な対象  | 愛鳥モデル校(小中9校)                                     |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3                   |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 56   |                       | 平成23年度   | 56                    | 前年比<br>増減額            |
| 事業内容                       | 概要  | 子どもたちの鳥を大切にすることを目的として、愛鳥講演会、野鳥観察会、巣箱の設置方法の講習を行う。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標  | 愛鳥講演会を6月と2月に計3回開催する。                             |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠  | 第11次鳥獣保護事業計画                                     |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  | ○                     | ○  |                       |                       |
|                            | 達成度   | 6校の愛鳥モデル校に対し、野鳥観察会および愛鳥講演会を実施した。                 |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ                                    | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)                                   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 野鳥観察を通じて、子どもたちの自然環境に対する興味や、自然を大切にすることを育んだ。        |  |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、野鳥観察を通じて、子どもたちの自然環境に対する興味や、自然を大切にすることを育んでいく。 |  |                       |  |                       |                       |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 33  | 所属名   | 琵琶湖環境部 自然環境保全課        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 鳥獣保護思想の普及啓発(愛鳥週間ポスターコンクールの実施)               |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 0   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 小・中・高・盲・聾・養護学校の児童生徒                         |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,4                 |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                      | 27  |                       | 平成23年度   | 27                    | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要  | 子どもたちの鳥を大切にすることを目的として、愛鳥週間ポスターの募集、表彰を行う。    |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 新たな参加校を増やしていく。                              |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等                                    | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                       |   |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度   | 58校から144点の応募があり、ポスターを描くことを通じて鳥を大切にすることを育んだ。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ                               | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)                              | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 58校から144点の応募があり、ポスターを描くことを通じて鳥を大切にすることを育んだ。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 十分な募集期間と徹底した周知により、参加校の増加を図る。                |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 34  | 所属名  | 健康福祉部 子ども・青少年局        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 「しがこども体験学校」推進事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 16  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 小学1～6年生<br>事業実施者   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,5,8,9               |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 3,331  |                       | 平成23年度   | 3,331                 | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要  | <p>「地域が学校、住民が先生」という考え方のもと、自然や地域社会等と関わり合う子どもたちの体験活動を推進する「しがこども体験学校」の取組を周知すると共に、子ども向けの体験プログラムの充実、事業実施者の拡大を図り、体験活動の機会の充実を目的とする。</p> <p>1. 事業の総合的な広報<br/>①子ども向け体験活動総合案内冊子の編集・発行<br/>②新規登録団体向けリーフレット作成・発行<br/>③体験活動情報をまとめたホームページの充実</p> <p>2. 多様な主体者による事業提供の促進<br/>①NPO、企業、市民団体等、県・市町行政以外の事業実施者募集<br/>②事業実施者、子どもの体験活動の指導者向けスキルアップ研修交流会の開催</p> |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 参加団体数 80団体(H21年度)<br>→90団体(H24年度)  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 淡海子ども・若者プランで設定した目標値をもとに設定(「住み心地日本一滋賀プラン2011」での目標値)   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | <p>・本年度は92団体からの175プログラムを紹介した冊子を7月1日に県内の全小学生に配付した。発行日の問い合わせがあったり、発行直後にプログラムへの申込みが殺到したりするなど、冊子の認知度は非常に高い。また、参加した保護者から、「普段できない活動で親子で楽しみにしている」という声もあり、プログラムへの満足度も見られる。</p> <p>・実施団体向けの研修交流会を年2回開催し、事例発表、情報交換によって体験プログラムの充実が図られてきており、プログラム実施団体も本事業の推進に協力的である。</p>   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 自然体験学習の推進体制は整いつつあるが、家族単位での活動が主であり、把握できていない。   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | <p>○プログラムのさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年および幼児の参加できるプログラムを増やす。</li> <li>・身近な場所でのプログラムを増やす(高島、湖東、湖北地域でのプログラム増)</li> </ul> <p>○しがこども体験学校推進事業登録団体としての意識を高める</p> <p>○子ども、保護者の声を吸い上げる工夫</p> |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 35  | 所属名  | 健康福祉部 子ども・青少年局        |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 保育所職員指導事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | S43   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 指導者(保育士等)  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 1,9                   |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 9,282  |                       | 平成23年度   | 9,277                 | 前年比<br>増減額            |              |
| 事業内容                       | 概要  | 保育所職員(保育士等)に対する研修会を実施する社団法人滋賀県保育協議会に助成するとともに、保育指導員による保育所への訪問指導により環境保育・学習の研修・指導等を実施する。  |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 児童が周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことができるよう、県保育協議会の実施する研修および保育指導員の保育指導を通じ、保育士の資質の向上を図る。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | (保育士の資質向上を図るための事業であり、環境学習にかかる人材育成を主たる内容としたものではないため、数的な目標設定は困難)   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 達成度   | 保育指導員により、県下104ヶ園へ訪問指導を行い、環境学習を含めた保育内容についてアドバイスを行った。<br>また、滋賀県保育協議会の行う研修に対し助成することにより、保育士の資質向上を図ったが、研修内容は保育実践にかかる内容が主であるため、環境学習に関するテーマは含まれてはいない。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 保育指針における「保育の内容」に示されているように、環境教育は保育の柱の一つであり、各園において、それぞれ実践がなされている。保育指導ならびに研修事業は、保育士の資質の向上を図り、これら保育内容の充実を図るものであり、間接的な関わりとなっている。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 保育指針における「保育の内容」に示されているように、周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことは、保育の柱の一つであり、保育指導ならびに研修により、引き続き保育士の資質の向上を図る。      |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 36  | 所属名  | 商工観光労働部 新産業振興課        |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | びわ湖環境ビジネスメッセ開催事業  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 10  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | 産業と環境  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象  | ビジネス関係者・一般   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 7.8                   |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 10,000   |                       | 平成23年度   | 10,000 前年比<br>増減額 0   |                       |             |
| 事業内容                       | 概要  | 環境産業の振興を図るため、企業・大学研究機関・海外企業・団体による環境ビジネス見本市とセミナーを開催する。  |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | びわ湖環境ビジネスメッセ開催期間中の「今後のセールスにつながる見込みのある商談件数」3,500を目標に、活気ある商談取引と情報発信・情報交流の場となる見本市開催を目指す。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 直近の過去3年間(平成21～23年)における有効商談件数の平均値(3,525件)   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   |  |                       | ○  | ○                     |                       |             |
|                            | 達成度   | <開催結果>出展者:297企業・団体 小間数:510小間 来場者:のべ35,500人、「今後のセールスにつながる見込みのある商談件数」:4,602件<br><評価等>過去最大規模のメッセの開催を通して、環境産業の振興および環境学習の機会や情報の提供を行うことができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 環境をテーマにしたセミナーを多数開催し、展示会場では環境関連製品や環境に対する取組について会場収容上限に達する企業・団体に出席していただいた。                           |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 出展規模は会場収容上限に達しているため、今後は”規模”よりも”質”を追求し、環境産業をリードする技術・製品出展者の勧誘や効果的な情報発信による来場者の増加により、より成果の上がるメッセを目指す。 |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 37   | 所属名   | 農政水産部 食のブランド推進課       |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 自治振興交付金(たんぼのこ体験事業)   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 21   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 食と農   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象   | 小学生   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |              |
| 事業内容                       | 概要   | 児童らが、農作物を「育て」、「収穫し」、「食べる」という一連の農業体験を通じて農業への関心を高め、生命や食の大切さを学ぶ場を提供する。(対象経費に対して市町へ自治振興交付金を交付する。) |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 県内全ての小学校(230校)において事業を実施する。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   | 全ての小学生が体験する機会を持てる目標を設定。   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  |                       |                       | ○            |
|                            | 達成度  | 県内203校で実施した。全体の88%の学校で農業体験学習に取り組み、児童の農業や食への関心を高めることができた。                                      |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
|                            |  | ○   | ○                     | ○  | ○                     |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      | 教育現場から、「作物を育てる楽しさや苦労を実感できた」、「農作業を通じて働くことの意義を感じた」、「気温や降水量など環境学習における今日の課題を考える機会となった」などの声が寄せられている。  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 自治振興交付金を活用した事業は、市町の判断で選択事業が決められることから、県にイニシアティブがなく、「たんぼのこ体験事業」の優先的な選択に向けて誘導が図りにくい状況である。<br>引き続き自治振興交付金を活用する等により、県内全ての小学校で農業体験学習に取り組んでもらえるよう、市町、教職員に対して働きかけを行っていく。 |   |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 38   | 所属名   | 農政水産部 食のブランド推進課       |  |                       |                       |
| 事業名                        | みんなが支える環境こだわり農業PR事業  |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 19   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野   | 食と農   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |
|                            | 主な対象   | 一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 2,662   | 平成23年度                | 2,384  | 前年比<br>増減額            | 278                   |
| 事業内容                       | 概要   | 環境こだわり農業の理解を深めるとともに、本県農業のスタンダードとなるよう、消費者や実需者に対しPR等啓発を行う。          |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標   | 若年層を対象とした環境こだわり農業連携PR業務を8団体が実施する。                                 |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠   | 県内各地の農業を学ぶ機会を設定。  |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  | ○                     | ○                     |
|                            | 達成度  | 実施結果: 8団体が当該事業を実施<br>環境こだわり農業の認知度が低い若年層を対象としたPR事業を8団体が実施することができた。 |                       |  |                       |                       |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |  |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |  |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 環境こだわり農業のPRを行うことによりこだわり農業の理解促進を図るとともに、こだわり農産物の購買意欲が醸成されるよう働きかけを行っていく必要がある。 |   |                       |  |                       |                       |



庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 39   | 所属名   | 農政水産部 食のブランド推進課       |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 「食べることで、びわ湖を守る。」推進事業   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 23   | 終了年度  | 26                    |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 食と農   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象   | 小学生、一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 1,800   | 平成23年度                | 12,000   | 前年比<br>増減額            | ▲ 10,200              |              |
| 事業内容                       | 概要   | 次代を担う子ども達が、琵琶湖と共生する本県の農業や漁業への理解を深め、地元農畜水産物への愛着心を育むための学習資料等を作成・配布する。                     |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 次代を担う子どもたちが、小学校で滋賀の農業や漁業を学ぶ学習に本教材が有効に活用される。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  |                       |                       | ○            |
|                            | 達成度  | 前年度に作成した、小学校4・5年の社会科授業で子ども達が環境こだわり農業や地域の農業について学べる補助教材DVDと指導用資料を、県内全小学校や関係機関に配布し活用を推進した。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 環境こだわり農業や地産地消の推進のためには、消費者の理解促進はもちろんのこと、次代を担う子ども達が将来滋賀県農業を支えるように育つ基礎作りが必要である。<br>このことから、作成した学習教材を実際に授業で有効活用していただくよう、教育委員会や現場の先生の協力を得ながらその周知を図るとともに、直売所を始めとした店舗においてDVDを流すことを推進し、一般消費者への理解促進を図っていく。 |   |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 40  | 所属名  | 農政水産部 食のブランド推進課       |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 琵琶湖産魚介類食育推進事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 食と農  |                       | 主たる<br>施策体系  | プログラム開発               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 小学5年生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 740  |                       | 平成23年度   | 740                   | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要  | 湖魚の食文化の継承と食育の推進のため、「うみのこ」における環境学習の場を活用して湖魚料理の給食の充実を図るとともに、小冊子を配布して事前学習を行う。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 「うみのこ」に乗船するすべての5年生を対象に湖魚給食と小冊子を提供する。                                       |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  | ○                     | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度   | テキスト「食べて知ろうよ！～びわ湖のめぐみ～」を作成し、「うみのこ」に乗船する子ども達に配布するとともに、学習会等で活用した。            |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 事業対象が毎年小学校5年のみとなるため、より広い年代の子ども達に学習効果を上げるよう、引き続き事業を継続していく。 |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |              |  |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 41           | 所属名  | 農政水産部 農業技術振興センター      |  |                       |                       |
| 事業名                        | 試験研究成果発表・体験会 |  |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | —            | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野           | 食と農  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |
|                            | 主な対象         | 農業者、関係機関   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 7.9                   |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度       | 200  |                       | 平成23年度   | 200                   | 前年比<br>増減額            |
| 事業内容                       | 概要           | センターで取り組んだ新たな試験研究成果について周知を図るため、発表・体験会を開催する。<br>(平成24年度テーマ:温暖化に強い水稻新品種「みずかがみ」の推進について)                                 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標           | 新たな試験研究成果について、農業者等への周知の場を設けることで、技術の迅速かつ効果的な普及推進に繋げるとともに、環境こだわり農産物を含む県産農産物全体に対する愛着を深め、以て県内農業振興に寄与する。                  |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠           |  |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系         | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無        |  |                       | ○  | ○                     |                       |
|                            | 達成度          | 夏季の高温でも品質低下が起りにくい水稻新品種「みずかがみ」について、品種特性や栽培技術の説明、パネル・稲穂等の実物展示、試食等を実施した。農業者や関係者等約100名の参加があり、「みずかがみ」の理解促進、普及推進に繋がったと考える。 |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |              |  |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |              | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              |              | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |              |  |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 継続実施 (テーマ未定) |  |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |             |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|-------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 42          | 所属名  | 農政水産部 農業技術振興センター      |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 農業技術研究会     |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | —           | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野          | 産業と環境  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象        | 県民・関係機関  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8,9                   |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度      | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0           |
| 事業内容                       | 概要          | センターにおける試験研究成果を農業者および関係機関等に紹介し、技術についての理解促進に努めるとともに、その技術普及の契機とする。また、その一部として環境こだわり農業技術についても紹介を行う。  |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標          | 参加者の農業試験研究に対する理解促進およびその技術普及に向け、各部門(水稲、野菜、果樹、花、茶)ごとに開催し、過不足のない技術説明を行う。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠          |  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系        | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無       |  |                       | ○  | ○                     |                       | ○           |
|                            | 達成度         | 次の3部門を実施した。<br>2/7 茶部門(参加者約50名)<br>3/1 共同研究部門(参加者約50名)<br>3/15 果樹部門(参加者約90名)<br><br>各部門で参加者と意見交を行ったことにより、参加者は試験研究への理解を深め、センターは参加者(生産者・消費者)ニーズの把握により、次年度の試験研究の推進に資することができたと考える。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |             |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |             | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |             | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |             |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 継続実施(テーマ未定) |  |                       |  |                       |                       |             |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|-----------------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 43                                | 所属名  | 農政水産部 農業技術振興センター      |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 茶業指導所参観デー                         |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | —                                 | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                                | 食と農  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象                              | 県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                            | 0  | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |              |
| 事業内容                       | 概要                                | 茶業指導所を一般開放し、試験研究内容・成果について紹介するとともに、県民の茶業に対する理解を促進し、また「近江の茶」の消費拡大に寄与する。その一環として、環境こだわり農業技術・環境負荷低減技術についての紹介・解説を行う。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                                | 参加者の農業試験研究に対する理解促進および「近江の茶」の消費拡大に向け、専門用語によらない分かり易い展示・解説に努める。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                                |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                              | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                             |  |                       | ○  | ○                     |                       | ○            |
|                            | 達成度                               | 環境こだわり農業について啓発するとともに、茶栽培における環境負荷軽減技術についての紹介を行った。農業者および一般県民約430名の参加があり、参加者の茶研究への理解促進に繋がったと考える。                  |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○                                 | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                                   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 参加者約430人に対し、茶栽培における環境負荷軽減技術を紹介した。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 継続実施（事業見直の可能性有）                   |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                 |   |                       |  |                       |                       |         |
|----------------------------|-----------------|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---------|
| NO                         | 44              | 所属名   | 農政水産部 農業技術振興センター      |  |                       |                       |         |
| 事業名                        | 農業大学校開放講座       |   |                       |  |                       |                       |         |
| 開始年度                       | —               | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |         |
| 分類                         | 分野              | 産業と環境   |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |         |
|                            | 主な対象            | 県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |         |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度          | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比増減額                | 0                     |         |
| 事業内容                       | 概要              | 農業者をはじめとする一般県民に対し、農業技術習得のための講座を開催し、その中で環境こだわり農業に関する解説を行う。   |                       |  |                       |                       |         |
| 事業目標                       | 目標              | 参加者の農業技術の習得に向け、農業者等の実情に即した実効性のある講座となるよう努める。   |                       |  |                       |                       |         |
|                            | 根拠              |   |                       |  |                       |                       |         |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系            | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発 |
|                            | 効果の有無           |   |                       | ○  | ○                     |                       |         |
|                            | 達成度             | 次の講座を実施した。<br>園芸講座5回(参加者計284人)<br>IT講座1回(参加者18人)<br>一般県民に対して、野菜・花き・果樹の技術講習を行った。いずれも盛況で、意欲ある受講生の参加がみられた。内容をわかりやすくしたので、よく理解願えたと考える。 |                       |  |                       |                       |         |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                 |   |                       |  |                       |                       |         |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                 | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |         |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                 | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |         |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      |                 |   |                       |  |                       |                       |         |
| 今後の課題・方向性                  | 継続実施(事業見直の可能性有) |   |                       |  |                       |                       |         |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                       |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 45                    | 所属名  | 農政水産部                 |  | 水産課                   |                       |             |
| 事業名                        | 都市漁村青年交流促進事業(マリンカレッジ) |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 9                     | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野                    | 食と農  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象                  | 県立大学学生   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 4                     |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                | 68   |                       | 平成23年度   | 68                    | 前年比<br>増減額            |             |
| 事業内容                       | 概要                    | 水産業への理解と関心を深めることを目的に、滋賀県立大学の栄養士を目指す学生を対象に、県漁連青年会の協力のもと、湖魚をテーマにした学習会と料理教室を開催する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標                    | 将来の食育を担う学生に琵琶湖産魚介類のすばらしさを伝える。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠                    |  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無                 | ○  |                       | ○  |                       |                       |             |
|                            | 達成度                   | アンケートの回答により、琵琶湖産魚貝類の調理実習と漁業者との交流を通じて琵琶湖の環境保全の認識を新たにした学生が多数認められた。               |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                       |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                       | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                       | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                       |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 継続して実施する。             |  |                       |  |                       |                       |             |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                           |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---------------------------|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 46                        | 所属名   | 農政水産部 水産課             |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 漁民の森づくり                   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 18                        | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野                        | 森林・里山   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象                      | 漁業者、一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 6,7,8                 |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                    | 110   |                       | 平成23年度   | 150                   | 前年比<br>増減額<br>▲ 40    |             |
| 事業内容                       | 概要                        | 琵琶湖の水源涵養による漁場環境保全の一環として、漁業者が主体となって植樹に取り組み、漁業者と森林事業者、県民の交流と漁場環境保全の意識啓発の場とする。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標                        | 山林と琵琶湖の水が繋がっていることを伝え、環境保全の意識を啓発する。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠                        |   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                      | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無                     |   |                       | ○  |                       | ○                     |             |
|                            | 達成度                       | 山林保全の作業を通じて、漁業者と林業者、地元企業や児童生徒との交流が図れた。                                      |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                           |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                           | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○                         | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 植樹だけの活動から、森林管理も行う活動に進展した。 |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 継続して実施する。                 |   |                       |  |                       |                       |             |



## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 47   | 所属名   | 農政水産部                 |  | 水産課                   |                       |
| 事業名                        | 魚を学ぶ体験学習促進事業                                 |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | -  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野   | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |
|                            | 主な対象   | 小中学生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3                   |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                       | 598   | 平成23年度                | 598  | 前年比<br>増減額            | 0                     |
| 事業内容                       | 概要   | 醒井養鱒場のさかな学習館、飼育池等の場内施設を活用して小中学生等に対して県内の河川等の魚類や漁業に関する知識の普及と理解に努める。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標   | 夏休み親子さかな教室10回<br>採卵教室5校(小学5年)<br>一般向けの体験型プログラムの充実を検討し、効果の向上を図る。   |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠   | 夏休み期間中週2回実施。<br>米原市内小学校の約半数。                                      |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  |                       |                       |
|                            | 達成度  | 夏休み親子さかな教室を10回開催し、384名が参加した。<br>採卵教室を4校開催し、児童81名が参加した。            |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 魚とふれあう場を提供し、魚を身近なものとする事で魚食の振興につなげるのが目的であるため。 |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 継続して実施する。                                    |   |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                      |  |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--------------------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 48                                   | 所属名  | 農政水産部                 |  | 水産課                   |                       |
| 事業名                        | 豊かな内水面漁業情報発信事業                       |  |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 21                                   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野                                   | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |
|                            | 主な対象                                 | 小学生、一般   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2.8                   |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                               | 5,488  |                       | 平成23年度   | 5,645                 | 前年比<br>増減額<br>▲ 157   |
| 事業内容                       | 概要                                   | 滋賀県河川漁業協同組合連合会に委託し、遊漁や内水面漁業の振興を図るため、ホームページや広報誌による遊漁の紹介を行うとともに、放流体験学習会や釣り教室を開催する。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標                                   | 放流体験学習会5回<br>溪流・アユ友釣り教室計4回   |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠                                   | 催行可能な上限数   |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                 | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                |  |                       | ○  |                       | ○                     |
|                            | 達成度                                  | 放流体験学習会を5回開催し、165名が参加した。<br>溪流・アユ友釣り教室を4回開催し、70名が参加した。                           |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                      |  |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                      | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○                                    | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 川釣りを体験することで河川漁業と魚食の振興につなげるのが目的であるため。 |  |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | H24までの事業。                            |  |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                 |  |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|---------------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 49                              | 所属名  | 農政水産部 水産課             |  |                       |                       |
| 事業名                        | 琵琶湖固有種ワタカで学ぶ南湖再生事業              |  |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 22                              | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野                              | 琵琶湖  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |
|                            | 主な対象                            | 一般   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 5,8                   |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                          | 4,500  | 平成23年度                | 4,000  | 前年比<br>増減額            | 500                   |
| 事業内容                       | 概要                              | 県民参加型事業として、夏休みに公募の親子を対象に学習会を開催する。また、県民や子ども達がチャーターした観光船に乗船し、環境学習を行うとともに船上からワタカ稚魚の放流を行う。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標                              | 夏休み親子水草と魚学習会2回(計40名)<br>ワタカ放流と船上学習会2回<br>(計120名)                                       |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠                              | 催行可能な上限数   |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                            | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                           |  |                       | ○  |                       | ○                     |
|                            | 達成度                             | 夏休み親子水草と魚学習会を2回開催し、43名が参加した。<br>ワタカ放流と船上学習会を2回開催し、122名が参加した。                           |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                 |  |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                 | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○                               | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 対象を親子やペアとすることで、体験を語り合う時間を提供できた。 |  |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 継続して実施する。                       |  |                       |  |                       |                       |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 50  | 所属名   | 農政水産部 農村振興課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | みずすまし構想推進事業                                     |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 10  | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県内9流域の地域住民(農家・非農家・土地改良区・行政等)  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,5,6,7,8             |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 209   |                       | 平成23年度   | 227                   | 前年比<br>増減額            | ▲ 18         |
| 事業内容                       | 概要  | 環境と調和した農業の推進と琵琶湖の環境保全に資するため、農村地域の水質および生態系の保全を目的とした「みずすまし構想」の実現を目指し、地域住民との協働による実践活動の推進を行う。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 環境学習や観察会を支援する。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 学校教育との連携による生き物調査で、後世を担う子供たちの農村環境への関心を深めることができた。   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 学校教育との連携による生き物調査で、後世を担う子供たちの農村環境への関心を深めることができた。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | みずすまし推進協議会のあり方について検討し、引き続き環境学習や観察会の支援に努める。      |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 51  | 所属名   | 農政水産部 農村振興課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 農村地域住民活動支援事業  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 13  | 終了年度  | 23                    |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他   |                       | 主たる施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県内9流域の農村を中心とした団体および地域住民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       |                       |              |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度  | 500   | 平成23年度                | 610  | 前年比増減額 ▲ 110          |                       |              |
| 事業内容                       | 概要  | 土地改良事業を実施する団体による農村環境の保全整備を推進する自主的な活動の定着や、持続的な活動の定着を支援する。<br>①農村環境の保全整備を推進するリーダーの育成支援<br>②活動を支援する専門家の登録、情報の提供および研修会の開催支援<br>③活動団体の支援体制整備 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 環境保全にかかる地域リーダー育成のための研修や、各地域で活動する組織、団体の交流会を開催する。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度   | 地域での環境保全の広がりや、関心の高まりの中で、地域での活動をより充実させるために、指導的な役割を受け持つ人材を育成できた。  |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 農村環境の保全整備を推進するための自主的な活動の定着や持続的な活動を支援するため、専門家の育成や派遣、並びに活動を支援する体制を整備する。 |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 52   | 所属名   | 農政水産部 農村振興課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 世代をつなぐ農村まるごと保全向上活動支援事業                       |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 19   | 終了年度  | 28                    |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | いきもの  |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象   | 地域住民(農家・非農家・土地改良区・JA・NPO等)で構成する活動組織   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,4,5,6,8           |                       |              |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度                                       | 281,048   | 平成23年度                | 278,250  | 前年比増減額                | 2,798                 |              |
| 事業内容                       | 概要   | 農地や農業用水などを守り、施設の長寿命化や農村環境の向上など、質を高める効果の高い共同活動を、子どもたちから高齢者までの様々な年齢層・立場の人たちの参加を得て取り組むことに対し、農地面積に応じて支援する。地域で取り組む活動を通して、将来の農村を担う子どもたちが、身近な田園環境に触れる機会を持てるように、要件を位置づけている。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 農村地域全域において共同活動の拡大を図るとともに、集落を支える保全管理体制を整備しつつ、老朽化した農業水利施設の長寿命化や水質・生態系等の環境保全の取組を効果的に推進する。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  | ○   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度  | 農家だけでなく非農家も含めて農村地域の環境保全対策について地域で考え、行動するといった体制が生まれた。   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 次期対策の開始にともない、多様な主体による資源保全活動を通して、農村地域の活性化を図る。 |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 53   | 所属名  | 農政水産部 農村振興課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 棚田保全ネットワーク推進事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 14   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 食と農  |                       | 主たる施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象   | 棚田地域住民および一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 4,5,6,7,8             |                       |              |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度   | 2,469  | 平成23年度                | 3,069  | 前年比増減額<br>▲ 600       |                       |              |
| 事業内容                       | 概要   | 水資源の涵養、生態系の保全、農村景観の保全など多様な役割を担う県内の棚田を継続的に保全するため、地域住民と都市住民(ボランティア)との協働による棚田保全活動を支援するとともに、棚田保全に関する普及啓発を実施する。<br>また、しが棚田トラスト制度により、個人や企業等から寄附金を募り、保全活動にかかる経費として活用する。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 棚田保全活動取組地域の拡大<br>(H23末 6地域)  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 達成度  | ボランティア活動を36回開催し、延べ349名が参加した。今年度新たに2地区が活動開始を全8地区で実施。また企業や大学との連携も進められた。  |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き地域住民とボランティアとの協働による棚田保全活動の推進を図るとともに、新たな取組地域の拡大を図っていく。 |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 54  | 所属名  | 農政水産部 農村振興課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 魚のゆりかご水田推進プロジェクト事業  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 19  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | いきもの   |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 地域住民および一般住民・小学生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       |                       |              |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度  | 100  | 平成23年度                | 80   | 前年比増減額                | 20                    |              |
| 事業内容                       | 概要  | 地域住民や一般住民の環境意識の向上、子ども達の環境学習の場としての役割を有している、かつての水田と琵琶湖のつながりを復元する「魚のゆりかご水田」を推進するための支援を行う。   |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 水田環境をテーマにした学習会や観察会を支援する。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  |                       | ○  |                       |                       | ○            |
|                            | 達成度   | 人や生きものが安心して暮らせる田んぼの環境を取り戻す意義を伝える場(フォーラムや交流会、各地域での水田周りでの生きもの観察会等)を設け、多くの方々に参加してもらうことができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
|                            |   | ○  | ○                     | ○  | ○                     |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      | 本プロジェクトの立ち上げまでに至る背景や現状、そして今必要となっている取組を説明し、観察会等の現場で肌で取組の意義を感じてもらうことで、環境保全意識の向上につなげていくことができている。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 今後も継続して学習会等を行うとともに、各種広報メディアを活用した広報も行い、広く知ってもらえる機会をつくっていく。                                     |  |                       |  |                       |                       |              |



## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 55  | 所属名   | 土木交通部 交通政策課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | エコ交通推進事業  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 16  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 生活と環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |              |
|                            | 主な対象  | 一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 5,800   |                       | 平成23年度   | 4,300                 | 前年比<br>増減額            | 1,500        |
| 事業内容                       | 概要  | 鉄道やバス等の公共交通機関と自転車、徒歩等の組み合わせによる、人と環境にやさしく、利便性が高い交通体系の構築を図るための取組を支援する。  |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | エコ交通推進事業費補助金対象事業数 5件  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 商店街連携事業1件、エコ交通活用事業1件、エコ交通推進啓発事業(各モデル1件)3件 計5件   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       |  |                       |                       | ○            |
|                            | 達成度   | <補助の実績><br>事業数4件<br>エコ交通推進事業費補助金<br>商店街連携事業1件、エコ交通活用事業1件、エコ交通推進啓発事業2件<br><効果><br>公共交通機関の利用促進啓発事業の効果で、マイカー利用から公共交通機関利用への誘導に一定の成果を得た。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○            |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 鉄道やバス、湖上交通や自転車・徒歩等を組み合わせた、人と環境に優しく、魅力と利便性の高い交通の確立に向けて行う取組を支援している。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 新規事業を積極的に採択し、様々なアプローチから公共交通の利用促進を図る。                              |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |         |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---------|
| NO                         | 56  | 所属名   | 土木交通部 交通政策課           |  |                       |                       |         |
| 事業名                        | 琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業  |   |                       |  |                       |                       |         |
| 開始年度                       | 19  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |         |
| 分類                         | 分野  | 生活と環境   |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |         |
|                            | 主な対象  | 県内および京都・大阪府内の小学校、特別支援学校(小学部)、および外国人学校等の教育施設(小学校就学年)   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                       |         |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度  | 4,000   |                       | 平成23年度   | 6,000                 | 前年比増減額 ▲ 2,000        |         |
| 事業内容                       | 概要  | 琵琶湖環状線を利用し、琵琶湖を中心とした滋賀県の地理・歴史・自然等についての学習を深めるとともに、小学生に環境に優しい公共交通である鉄道に親しむ機会を提供するため、琵琶湖一周体験学習等に要する鉄道運賃と船乗船料(県外のみ)の一部を補助する。  |                       |  |                       |                       |         |
| 事業目標                       | 目標  | 琵琶湖環状線を利用して琵琶湖一周体験学習等を行う小学生の数<br>県内 6,000人<br>県外 1,000人(京都府および大阪府)  |                       |  |                       |                       |         |
|                            | 根拠  | ・県内: 小学校4年生在籍児童の約半分を目標に設定<br>・県外: 琵琶湖流域37市町村小学校1,041校 1学年平均70人 全輸送人員に占めるJR分担率14% 対象校における参加率10%として、1,041×70×0.14×10% 約1,000人   |                       |  |                       |                       |         |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発 |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  |                       |                       |         |
|                            | 達成度   | 鉄道を利用して琵琶湖一周等をする事により、環境にやさしい公共交通機関への理解と、琵琶湖を中心とした滋賀の自然や歴史への関心が深まった。<br>平成24年度の実績<br>・湖北・湖西以外 73校 4,937人<br>・湖北 14校 546人<br>・湖西 16校 699人<br>・県外 1校 1人<br>計 103校 6,182人 |                       |  |                       |                       |         |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |         |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |         |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |         |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      | 事業実施にあたり、社会科の授業を活用して実施するなど、事業の中での位置づけを示すことにより、学習に取り入れやすくしている。<br>事前学習用のしおりを配布することにより、あらかじめ公共交通への理解や滋賀について感心を持ち、考えてもらう機会をもってもらおうようにしている。<br>また事業実施後には、認定証を発行し、事後学習で活用してもらっている。 |   |                       |  |                       |                       |         |
| 今後の課題・方向性                  | より多くの学校に活用してもらえよう、さらに働きかけていく必要がある。  |   |                       |  |                       |                       |         |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 57   | 所属名  | 土木交通部 砂防課             |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 砂防出前講座   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 16   | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 森林・里山  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象   | 小中学生・教職員・災害時<br>要援護者施設職員・一般県<br>民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 2,3,6,7,8 |                       |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0  | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要   | 近年多発する集中豪雨や地震により土砂災害はいつ起きても不思議ではない。県民一人一人の防災意識の向上を図り、土砂災害から身を守るため、学習の場を提供する。プロジェクターや土石流模型等を用いて土砂災害の種類・前兆現象や避難行動の方法等をわかりやすく説明する。また、実際に現地において「砂防えん堤」や「よう壁工」等を見ながら、砂防施設の役割などについて学習する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 平成23年度の開催回数12回を上回る。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | 県内に存在する土石流等危険箇所(全4,910箇所)に対して施設整備をするためには、まだまだ多額の費用と時間を要するため、ソフト事業が不可欠となってくる。その一環として、県民に対して、より幅広く啓発広報活動を行うことにより、土砂災害からの被害を軽減する。   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |  |                       | ○  | ○                     |                       | ○           |
|                            | 達成度  | 平成24年度は13回開催し、平成23年度の12回を上回ることができた。  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 今後とも、土砂災害に対する県民の理解を深めるため、出前講座の機会のみならず内容も充実させていく。 |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 58  | 所属名  | 土木交通部 都市計画課           |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | びわこ地球市民の森のつどい   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 12  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | 森林・里山  |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |             |
|                            | 主な対象  | 県民<br>森づくりサポーター<br>緑の少年団 等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 1,338  |                       | 平成23年度   | 1,338                 | 前年比<br>増減額            | 0           |
| 事業内容                       | 概要  | 春季における都市緑化推進運動の一環として、都市緑化の普及啓発を行うため「びわこ地球市民の森」においてつどいを開催し、植樹等森づくりの記録発表や記念植樹、森の自然観察(野外写生、森の生き物観察など)を実施する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 3,000本植樹   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | ・過年度開催時の植樹本数より目標設定<br>H23年度3000本植樹<br>(1,200m2*2.5本/m2)  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○           |
|                            | 達成度   | 4月14日開催し、参加者総数2,200人が苗木3,000本を植樹した。  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○           |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 温暖化防止、自然再生をテーマに苗木の植樹による森づくりを県民と協働で実施する舞台がびわこ地球市民の森。この森づくりでは、森の成長過程を学習しながら進めている。 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 植樹活動はH25年度で終了する予定であり、これからは育樹活動への協働を進め、自然再生の過程を見守る。                              |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 59   | 所属名  | 土木交通部                 |  | 都市計画課                 |                       |             |
| 事業名                        | びわこ地球市民の森(森づくりサポーター活動開催)                     |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 14   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 森林・里山  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象   | 森づくりサポーター<br>県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                       | 962  | 平成23年度                | 962  | 前年比<br>増減額            | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要   | 県民共有の自然的財産である「地球市民の森」を県民との協働で創造していくため、植樹された苗木の維持管理として施肥や除草を行うほか、自然教室を開催する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 年4回のサポーター活動の開催   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | 季節毎の開催   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     | ○           |
|                            | 達成度  | ・サポーター登録者数 個人254名、団体数6団体<br>・4回開催  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○           |
|                            |  | ○  | ○                     | ○  | ○                     | ○                     |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       | /           |
|                            |  | ○  | ○                     | ○  | ○                     |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 樹木の育樹活動を支える森のボランティア組織、年4回開催。自然教室も合わせて開催している。 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 苗木の植樹から始まる森づくりは、息の長い関わりが必要である。               |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 60  | 所属名   | 土木交通部 流域政策局           |  |                       |                       |
| 事業名                        | 家棟川ピオトープ自然観察会   |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 19  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野  | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |
|                            | 主な対象  | 一般県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 0   |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            |
| 事業内容                       | 概要  | 家棟川河口右岸に造成された家棟川ピオトープにて「人と自然との新たな関係の構築」を目的とした自然観察会を地域住民、専門家、行政の協働で実施する。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標  | 地域住民、専門家、行政の協働で実施する。  |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     |                       |
|                            | 達成度   | 一般参加者を対象に、自然観察会および情報提供を実施した。  |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 人と水辺との関わりが深まるよう、ピオトープ内で動植物の観察を行うことにより、自然環境の保全の大切さを学ぶことができた。 |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 継続実施  |   |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 61  | 所属名   | 土木交通部 流域政策局           |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 木の岡ピオトープ自然観察会   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 17  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象  | 一般県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 0   |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0           |
| 事業内容                       | 概要  | 大津市木の岡町湖岸の木の岡ピオトープにて自然観察会を地域住民、近隣企業、専門家、行政の協働で実施する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 地域住民、近隣企業、専門家、行政の協働で実施する。                           |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     |                       |             |
|                            | 達成度   | 一般参加者および小学校を対象に、自然観察会および情報提供を実施した。                  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ                                       | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)                                      | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 木の岡ピオトープの存在とその大切さを自然観察会や情報提供を通じて伝えることができた。小学校からは、感想文をいただいた。 |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 継続実施  |   |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                             |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|-----------------------------|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 62                          | 所属名   | 南部環境事務所               |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | こなん水環境フォーラム                 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 21                          | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                          | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象                        | 一般(他府県含む)   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                      | 0   |                       | 平成23年度   | 206                   | 前年比<br>増減額            | ▲ 206        |
| 事業内容                       | 概要                          | 南部地域で環境保全に関して活動するNPOなどの様々な団体による発表・交流の場となるフォーラムを開催する。                            |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                          | 様々な環境保全活動を多くの人たちに知ってもらい関心を持ってもらうと同時に行動に移してもらうきっかけづくりにする。                        |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                          |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                        | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                       |   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度                         | 参加団体、27団体。参加者122名。<br>(活動発表や出展ブース巡り等により、様々な環境保全活動を参加者に知ってもらい、行動の輪を広げる機会を提供できた。) |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                             |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                             | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                             | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                             |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 今後のフォーラムのあり方、開催手法について検討が必要。 |   |                       |  |                       |                       |              |



庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|----------------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 63                               | 所属名  | 甲賀環境事務所               |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 水生生物調査用具の貸出                      |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 0                                | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                               | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象                             | 学校、地域団体等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,8                 |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                           | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要                               | 水生生物調査を行う学校や地域団体等に対する、必要な用具(ルーペ、網、バット、ザル等)の貸し出し。   |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                               | NPO等が実施する生物調査を支援することにより、地域の環境保全意識の高揚に資する。          |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                               | 用具の貸し出し事業であるため。                                    |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                             | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                            |  |                       |  |                       | ○                     |              |
|                            | 達成度                              | 関係団体への用具の貸出を通じて、当該団体に連携・協力し、環境学習の機会づくりに寄与することができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                  | 第1段階<br>関心を持つ                                      | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○                                | 体験前<br>(目的をもつ)                                     | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 用具の貸し出し事業であるため。                  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 環境学習の機会が増えるよう関係団体とも連携して周知に努めていく。 |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 64   | 所属名   | 東近江環境事務所              |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 水生生物調査用具の貸出  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 0  | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象   | 学校、地域団体等                                      |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,8                 |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |              |
| 事業内容                       | 概要   | 水生生物調査を行う学校や地域団体等に、必要な用具(顕微鏡、網、バット、ザル等)を貸し出す。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | NPO等が実施する生物調査を支援することにより、地域の環境保全に係る意識の高揚に資する。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等                                      | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       |  |                       | ○                     |              |
|                            | 達成度  | 地域NPO等と連携することができた。                            |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ                                 | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)                                | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | NPO等の活動を支援するという意味においては、調査用具を貸し出すということでその目的が達成できたと思われる。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | —  |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--------------------------------|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 65                             | 所属名   | 湖東環境事務所               |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 流域活動促進支援事業                     |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 16                             | 終了年度  | 0                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野                             | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |             |
|                            | 主な対象                           | 一般住民等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,4,5,8             |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                         | 0   |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0           |
| 事業内容                       | 概要                             | <p>環境フォーラム湖東(流域協議会)と協働し、地域における住民の環境意識の向上を目的とし、啓発活動を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>湖東の生き物調査の実施(住民参加型調査)</li> <li>湖東地域環境シンポジウムの開催</li> <li>エコサロンの開催</li> </ul> |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標                             | 湖東の生き物観察会を3回実施する。   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠                             |   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                           | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無                          |   |                       |  |                       |                       | ○           |
|                            | 達成度                            | 湖東の生き物観察会は、カタツムリ観察会を3回、延べ130人の参加を得て開催した。観察会のほか、湖東地域環境シンポジウムとエコサロン(交流会)の開催を合わせて、地域における住民の環境意識の向上に向けた取組を行うことができた。   |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                                | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                                |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、関係団体との協働により啓発事業を実施していきたい。 |   |                       |  |                       |                       |             |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 66   | 所属名  | 湖東環境事務所               |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 水生生物調査用具の貸出                                      |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 0  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |             |
|                            | 主な対象   | 小学生、中学生、一般県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,8                 |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0           |
| 事業内容                       | 概要   | 水生生物観察会を行う団体等に必要な道具(バット、ザル、虫眼鏡、ピンセット等)を貸し出す。   |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 住民組織やNPO等が実施する水生生物調査に用具の貸出を行うことにより、環境保全意識の高揚に資する。  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | 調査用具により環境教育を行うのは住民組織などで、当課としては用具を貸し出すのみのため、数値目標の設定は困難。                                     |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |  |                       |  |                       | ○                     |             |
|                            | 達成度  | 関連団体への用具の貸し出し、テキストの配布により、水生生物観察会が11回、延べ450人に対して実施され、地域の環境保全意識の高揚に向けた環境学習の機会づくりに寄与することができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 観察会においては、人と自然の関わりを考えるように実施されている。                 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、用具の貸し出しによる環境学習の機会づくりを通じて、地域の環境保全意識の高揚を図りたい。 |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 67                                     | 所属名   | 湖北環境事務所               |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 水生生物調査用具の貸出                            |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 0                                      | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                                     | いきもの  |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |              |
|                            | 主な対象                                   | 管内住民、NPO等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,8                 |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                 | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |              |
| 事業内容                       | 概要                                     | 水生生物調査を行う学校や地域団体等に必要な用具(タモ網、バット、ザル等)を貸し出す。          |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                                     | 管内住民やNPO等が実施する水生生物調査に用具の貸出を行うことにより、環境保全意識の高揚に資する。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                                     | 管内住民やNPO等が実施する水生生物調査に用具の貸出を行うため。                    |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                  |   |                       |  |                       | ○                     |              |
|                            | 達成度                                    | 管内住民やNPO等が実施する水生生物調査に用具の貸出を行うことにより、環境保全意識の高揚に寄与できた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ                                       | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○                                      | 体験前<br>(目的をもつ)                                      | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 用具の貸出事業であるため                           |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 今後も引き続き、住民やNPO等が実施する水生生物踏査に用具の貸出を実施する。 |   |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |               |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 68            | 所属名  | 津・南部農業農村振興事務所 田園振興課   |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 出前講座          |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 16            | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野            | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象          | 小学生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度        | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要            | 田んぼの役割や田んぼの生き物の理解を深めるため、小学校に出向き出前講座を行う。                    |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標            | 出前講座 1回以上開催  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠            | 開催回数は、共同で開催する土地改良区や小学校との調整によりを決定するが、1回以上は開催する              |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系          | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無         |  |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度           | 土地改良区と協力して、小学校の5年生を対象に出前講座を1回実施した。身近なたんぼの役割などについて理解がふかかった。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |               |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |               | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |               | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |               |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 今後も継続して実施したい。 |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 69   | 所属名  | 湖北農業農村振興事務所 田園振興課     |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 早崎内湖再生検討事業   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 14   | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | いきもの   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |             |
|                            | 主な対象   | 小学生と一般   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2.8                   |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 250  | 平成23年度                | 250  | 前年比<br>増減額            | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要   | 県が試験的に湛水している早崎ピオトープには数多くの生物が生息しており、環境学習(生物観察会)の場として、自然環境の大切さを考えるきっかけとして活用する。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 夏の自然観察会および冬の水鳥観察会を各1回開催する。   |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | 自然豊かな季節と水鳥飛来時期に開催  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |  |                       |  |                       |                       | ○           |
|                            | 達成度  | 年々参加者は増加の傾向にあり、自然再生に関心を持たれているものと思われる。  |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
|                            |  | ○  | ○                     | ○  | ○                     |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 内湖再生の必要性と効果を学習し、自然体験学習会の企画の自立と内湖再生後における維持管理手法の検討や、地域の振興が必要となる。 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 継続して実施の必要がある   |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 70   | 所属名  | 湖北森林整備事務所 -           |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 森林環境学習支援事業   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | H18  | 終了年度   | H24                   |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 森林・里山  |                       | 主たる施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象   | 小学生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                       |             |
| 当初予算額(千円)                  | 平成24年度   | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比増減額                | 0           |
| 事業内容                       | 概要   | より体系的な森林・林業への理解を深めるため、年間を通じての体験学習を希望する学校に対して支援をする。   |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 県が実施している森林環境学習「やまのこ」事業の補助的な事業という立場のもと希望校に対し実施し、体験学習を通じて森林・林業への理解を深めてもらう。                                     |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |  |                       | ○  |                       |                       |             |
|                            | 達成度  | 所管内の小学校4～6年生を対象として、木登り、間伐、フィールドワーク等の活動を計3校で、のべ4回実施した。フィールドワークや、林業の一部を体験してもらったことで、子供たちに森林整備の大切さを感じとってもらえたと思う。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容(上記の根拠)      | 体験前: オリエンテーションの実施<br>体験中: 林業の一部を実際に体験<br>身近な森(学校林等)での活動<br>体験後: ふりかえりの実施 |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 来年度も市と連携して希望校に対して支援を行う。  |  |                       |  |                       |                       |             |



庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 71  | 所属名   | 企業庁 ー                 |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 浄水場一般開放・施設見学  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 16  | 終了年度  | ー                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | 水環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 一般・団体   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 405   | 平成23年度                | 405  | 前年比<br>増減額            | 0                     |              |
| 事業内容                       | 概要  | 水道について理解を深めてもらうため、琵琶湖や野洲川から取水した水が水道水になる過程を浄水場で見学してもらう。一般解放は6/1~7の水道週間に実施している。団体の見学については年間を通して申込みがあれば実施している。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | びわ湖や野洲川から取水した水が飲み水になるまでの過程を学ぶ浄水場見学と併せ、職員による沈殿・ろ過実験を実施し、浄水場のしくみを説明する。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度   | 浄水場見学や沈殿・ろ過実験等を通じて、浄水場の仕組みを説明した。来場者は4,098名。   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 浄水場見学を通じて、琵琶湖や河川の水を浄水して飲料水になるまでの過程を学ぶことにより、水の大切さを見つめ直し、水源である琵琶湖や河川の汚水防止に努めてもらう。 |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 72   | 所属名   | 企業庁 ー                 |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 水道出前講座   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 16   | 終了年度  | ー                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 水環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |             |
|                            | 主な対象   | 小学生   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要   | 水道についての理解を深めるため、浄水場見学に来られない学校の希望により、当庁職員が教室に向いて、浄水場のしくみや仕事についての授業を行う。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 浄水場見学に来られない学校の希望により、当庁職員が教室に向き、浄水場のDVDや沈殿・ろ過実験を行いながら浄水場のしくみを説明する。     |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  |                       |                       |             |
|                            | 達成度  | 浄水場のビデオ視聴や沈殿・ろ過実験等を通じて、浄水場の仕組みを説明した。講座参加者は375名。                       |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 講座を通じて、琵琶湖や河川の水を浄水して飲料水になるまでの過程を学ぶことにより、水の大切さを見つめ直し、水源である琵琶湖や河川の汚水防止に努めてもらう。 |   |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                        |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|------------------------|
| NO                         | 73   | 所属名  | 教育委員会                 |  | 学校教育課                 |                        |
| 事業名                        | びわ湖フローティングスクール   |  |                       |  |                       |                        |
| 開始年度                       | S58  | 終了年度   | -                     |  |                       |                        |
| 分類                         | 分野   | 琵琶湖  |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                        |
|                            | 主な対象   | 小学5年生  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2                     |                        |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 248,793  |                       | 平成23年度   | 271,410               | 前年比<br>増減額<br>▲ 22,617 |
| 事業内容                       | 概要   | 学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った1泊2日の宿泊体験型の教育を展開する。びわ湖環境学習を通して環境に主体的にかかわる力と、ふれあい体験学習を通して人と豊かにかかわる力の育成を図る。 |                       |  |                       |                        |
| 事業目標                       | 目標   | 県内のすべての小学5年生児童を対象に、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開する。   |                       |  |                       |                        |
|                            | 根拠   | -  |                       |  |                       |                        |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発       |
|                            | 効果の有無  |  | ○                     | ○  | ○                     |                        |
|                            | 達成度  | 県内のすべての小学5年生児童を対象に、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開することができた。   |                       |  |                       |                        |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                        |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及)  |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                        |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 子どもたちが琵琶湖を含めた自然環境を体感し、そのすばらしさを身近に感じることのできる貴重な体験の機会となっている。また、子どもたちがふるさとを愛する気持ちを育み、環境保全への意識を高めることにつながっている。 |  |                       |  |                       |                        |
| 今後の課題・方向性                  | 事前・事後学習の充実を図り、フローティングスクールでの学習を生かして、家庭や学校、地域において、環境保全のために自分できることを見付け、実践していく態度の育成を図る。                      |  |                       |  |                       |                        |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |                                      |  |                       |  |                       |                       |         |
|----------------------------|--------------------------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|---------|
| NO                         | 74                                   | 所属名  | 教育委員会                 |  | 学校教育課                 |                       |         |
| 事業名                        | 環境教育研究協議会                            |  |                       |  |                       |                       |         |
| 開始年度                       | S50                                  | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |         |
| 分類                         | 分野                                   | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |         |
|                            | 主な対象                                 | 教職員  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 9                     |         |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                               | 113  |                       | 平成23年度   | 113                   | 前年比<br>増減額            |         |
| 事業内容                       | 概要                                   | 環境教育の具体的な推進の方策を探り、指導に当たる教員の指導力の向上を目指す。                   |                       |  |                       |                       |         |
| 事業目標                       | 目標                                   | 環境教育副読本を活用した環境教育の具体的方策について協議を行い、教員の指導力の向上を図る。            |                       |  |                       |                       |         |
|                            | 根拠                                   | —  |                       |  |                       |                       |         |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                 | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発 |
|                            | 効果の有無                                | ○  |                       | ○  | ○                     |                       | ○       |
|                            |                                      | 環境教育の実践事例の交流や国立教育政策研究所総括研究官による講演等を行い、教員の指導力の向上を図ることができた。 |                       |  |                       |                       | 達成度     |
| ☆☆☆(目標以上達成)                |                                      |  |                       |  |                       |                       |         |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |                                      |  |                       |  |                       |                       |         |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |                                      | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |         |
| 体系的な自然体験学習の推進              |                                      | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |         |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |                                      |  |                       |  |                       |                       |         |
| 今後の課題・方向性                  | 県内の優れた環境教育の実践や環境教育副読本の活用に係る実践交流等を行う。 |  |                       |  |                       |                       |         |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 75  | 所属名   | 教育委員会                 |  | 学校教育課                 |                       |
| 事業名                        | 環境教育副読本「あおいびわ湖」等の活用   |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | S55   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野  | 琵琶湖   |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |
|                            | 主な対象  | 小学校<br>中学校<br>高等学校<br>特別支援学校  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,4,9               |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |
| 事業内容                       | 概要  | 各学校における環境教育を充実・推進するために、環境教育副読本「あおいびわ湖(小学校編)」「あおい琵琶湖(中学校編)」「琵琶湖と自然(高等学校編)」を活用する。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標  | 環境副読本の活用促進を図り、小・中学校においては、活用率100%を達成する。  |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠  | 県内のすべての学校における環境学習の充実を図るため。  |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   | ○                     |  | ○                     | ○                     |
|                            | 達成度   | 小・中学校においては、活用の促進を図るため、県環境教育研究協議会や教育課程研究協議会で副読本を活用した実践を交流することができた。               |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | うみのこ、やまのこ、たんぼのこ事業等、体験的な活動を生かした環境教育では、事前・事後学習に環境教育副読本を活用することで、目的意識をもたせたり、学習の振り返りをしたりする学習の充実を図る手立てとなっている。 |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 副読本の効果的な活用を図るため、各種協議会や研修会等で実践交流を行う。「しが環境教育リーディング事業」で、副読本を効果的に活用した研究実践を行う。                               |   |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 76   | 所属名   | 教育委員会                 |  | 学校教育課                 |                       |             |
| 事業名                        | 環境教育モデル校の設置  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | H8   | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | 琵琶湖   |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |             |
|                            | 主な対象   | 小学校<br>中学校<br>高等学校<br>特別支援学校  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,3,4,9               |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 0   | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要   | 小・中・高等学校・特別支援学校を対象として応募等により決定し、県内の学校における環境教育の推進を担う。各学校の実態や特徴を生かした創造的な実践活動を展開するとともに取組や成果を発表し、環境問題に関する児童・生徒・教員・県民等の意識の高揚と交流を図る。 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 環境教育のより一層の充実発展のために、県内小・中・高等学校、特別支援学校の中から30校を「環境教育モデル校」(研究推進校)に指定し、今後の環境教育のあり方を示唆する先進的な取組および研究活動を推進する。                         |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | 環境教育モデル校に指定した学校が取り組む優れた環境学習の実践事例を取りまとめ、本県の環境教育の一層の充実と発展を図るため。   |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |   | ○                     |  | ○                     |                       | ○           |
|                            | 達成度  | 36校(小学校26校、中学校7校、高等学校2校、特別支援学校1校)をモデル校に指定した。モデル校の実践を事例集に取りまとめ、県ホームページに掲載することで各学校の環境教育の質的な向上を図ることができた。                         |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○           |
|                            |  | ○   | ○                     | ○  | ○                     | ○                     |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       | /           |
|                            |  | ○   | ○                     | ○  | ○                     |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | モデル校の実践では、身近な自然環境を生かした調査活動や環境保全活動等に進んで取り組むことにより、目的意識をもって環境保全のために取り組んでいこうとする態度を育てている。 |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | モデル校の優れた実践を県環境教育研究協議会等で発表し、県内の学校に発信・普及する。  |   |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |                        |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| NO                         | 77   | 所属名   | 教育委員会                 |  | 学校教育課                 |                       |                        |
| 事業名                        | しが環境教育リーディング事業   |   |                       |  |                       |                       |                        |
| 開始年度                       | 24   | 終了年度  | 26                    |  |                       |                       |                        |
| 分類                         | 分野   | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | プログラム開発               |                       |                        |
|                            | 主な対象   | 小学校<br>中学校<br>高等学校  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,3,4,9               |                        |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 220   |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            |                        |
| 事業内容                       | 概要   | これまでの環境教育の実践を総括するとともに、持続可能な社会の実現に向けて人と環境とのよりよい関係を築く環境教育のあり方についての研究実践を通して、本県環境教育の新たな進展を図る。 |                       |  |                       |                       |                        |
| 事業目標                       | 目標   | 県内の小学校、中学校、高等学校から研究実践校を16校指定し、研究テーマに基づく研究実践を行う。   |                       |  |                       |                       |                        |
|                            | 根拠   | 県内の代表小学校8校、中学校4校、高等学校4校が連携した研究取り組みの実践と成果を作り上げ、周囲への環境教育の取り組みを啓発していく。                       |                       |  |                       |                       |                        |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発                |
|                            | 効果の有無  | ○   | ○                     | ○  | ○                     | ○                     |                        |
|                            |  | 研究実践校において、従来の環境教育の成果と課題を踏まえ、探究的な学習プロセスと育成すべき能力・態度を位置付けた環境学習プログラムを作成することができた。              |                       |  |                       |                       | 達成度<br><br>☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |                        |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |                        |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |                        |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 指定校の研究実践では、これまでの環境教育の実践の成果と課題を踏まえ、人と環境とのよりよい関係を築く環境教育の在り方についての研究実践が進められており、持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする児童・生徒の能力・態度の育成につながっている。 |   |                       |  |                       |                       |                        |
| 今後の課題・方向性                  | 環境学習プログラムに基づく授業研究を行い、成果を検証する。平成26年度の県環境学習フォーラムでの提案・発信に向け、研究実践をとりまとめ、指導資料の作成を行う。  |   |                       |  |                       |                       |                        |

## 市内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 78   | 所属名   | 教育委員会 学校教育課(総合教育センター) |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 環境教育講座   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 24   | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | 水環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象   | 小学校・中学校・高等学校・<br>特別支援学校教職員  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 9                     |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 20  | 平成23年度                | 0  | 前年比<br>増減額            | 20                    |              |
| 事業内容                       | 概要   | 研究発表や講義、野外での実習を通して、環境教育の基本的な理論と手法を学ぶことで、指導者としての資質と指導力の向上を目指す。                 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 野外での実習を通して、環境教育の基本的な理論と手法を学ぶことにより、教職員の資質と指導力の向上を目指す。                          |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  | ○   | ○                     | ○  | ○                     | ○                     |              |
|                            | 達成度  | 滋賀大学教授による講義・実習を通して、環境学習プログラムを学び、実践することができた。また、河川における実習により、教員の指導力の向上を図ることができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 身近な自然環境を題材にし、環境プログラムや実地の自然体験を通じて環境学習に取り組むことにより、教職員の資質および指導力の向上を目指している。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 環境学習における多様な切り口、手法を県内教職員に紹介・実践し、活用の場を広げていく。                             |   |                       |  |                       |                       |              |



## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 79   | 所属名   | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | しが☆まなび☆発見！   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 24   | 終了年度  | 0                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |              |
|                            | 主な対象   | 県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 1.2.3.4.5.6.7.8.<br>9 |                       |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | -   |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要   | 県の各機関が連携し、滋賀県に関連する様々な学びの素材を広く県民の方にワンストップで提供する機会を設けることにより、さまざまな主体が協働するきっかけづくりや学びを生かした地域づくりにつなげることを目的とします。                    |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 県の各機関が連携し、「人と人とがつながる 子どもの育ち応援広場」をテーマに、様々な学びや体験の素材をワンストップで提供します。<br>多様な主体が1つの場に出展することにより、新たな協働のきっかけづくりや学びを生かした地域づくりなどにつなげます。 |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○            |
|                            | 達成度  | 約2千名の来場者があり、アンケートからは、夏休みの自由研究の課題になって、とても良かったとの評価をいただいた。   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 様々な学びの素材が一堂に会する見本市であり、環境に関する新たな気づきや発見をしていただく機会であるため。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 企業や団体もっている各種のプログラムを加え、プログラムを充実させること。                 |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 80   | 所属名   | 教育委員会                 |  | 生涯学習課                 |                       |              |
| 事業名                        | 淡海生涯カレッジ開設事業   |   |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 8  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野   | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象   | 18歳以上の県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8,9                   |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 984   |                       | 平成23年度   | 984                   | 前年比<br>増減額            |              |
| 事業内容                       | 概要   | 環境等をテーマに県内5か所で開催し、日常的な学習から大学での理論的な学習を組み合わせ、県内の多様な学習機関が連携・協力した広域的で体系的な学習機会を提供する。                               |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標   | 講座回数は各校とも18～20講座を開催。<br>受講生150名を見込み、講座修了後、学習成果を生かした地域での積極的な社会参加を推進する。<br>滋賀大学の理論学習講座では、自主グループによる調査研究発表会を開催する。 |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠   | 受講生は各5校ともに定員30名と定めている。  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  | ○   |                       | ○  |                       | ○                     |              |
|                            | 達成度  | 全定員150名(30名×5校)に対し、146名の受講があり、うち105名が修了。(修了率71.9%)  |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 公民館等での問題発見講座、高等学校での実験・実習講座、大学での理論学習講座を通じて体系的に学び、修了後の社会活動への参加も応援する。 |   |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 幅広い層の受講生の確保に努める。   |   |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 81  | 所属名  | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 高等学校等開放講座事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | S57   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 場や機会づくり               |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 0  |                       | 平成23年度   | 0                     | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要  | 高等学校等の教育機能を県民に開放し、学習機会を提供する。                     |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 各校の特色を活かした多種多様な講座を開設し、県民に学習の機会を提供する。             |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  |                       | ○  |                       |                       |              |
|                            | 達成度   | 5講座を開設し、各校の特色を生かした講座を開設することができ、県民に学習の場や機会を提供できた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ                                    | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)                                   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 各校の特色を生かした講座を開設することができ、県民に学習の場や機会を提供できた。<br>(※今年度は、環境学習関連の講座が開設されなかった。) |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 講座数が減少しており、各校の特色を生かした講座の自発的な取組を推進できるようにする。                              |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 82   | 所属名  | 教育委員会                 |  | 生涯学習課                 |                       |             |
| 事業名                        | 学習情報提供システム整備事業   |  |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 4  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野   | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |             |
|                            | 主な対象   | 県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 4,391  | 平成23年度                | 4,391  | 前年比<br>増減額            | 0                     |             |
| 事業内容                       | 概要   | 学習情報提供システム「におねっと」による、インターネットでの学習情報の提供および学習相談を行う。         |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標   | 全講座掲載数:1,650件(平成24年度)                                    |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠   | 平成23年度全講座掲載数:1,740件(平成24年3月31日現在)                        |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無  |  |                       |  | ○                     |                       |             |
|                            | 達成度  | 全講座掲載数1,848件。環境学習に関する情報のみに限らず、目標値以上の学習情報を一元的に提供することができた。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |  |  |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 各段階に該当する環境学習関連の講座情報を提供することができた。                          |  |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 講座の様子を発信できる「におねっとレポート」をさらに効果的に活用し、サイトの発信力を強め情報提供の充実に努める。 |  |                       |  |                       |                       |             |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 83  | 所属名  | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 生涯学習推進事業  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 2   | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 2,787  | 平成23年度                | 2,781  | 前年比<br>増減額            | 6                     |              |
| 事業内容                       | 概要  | 生涯学習に関する情報を県民に一元的に提供する「しがの生涯学習スクエア」を運営する。また、生涯学習推進員を配置して、生涯学習に関する情報収集・提供・相談および協働のコーディネートを行う。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 環境学習をはじめ県民のニーズに応じた学習情報の提供や様々な学習相談に対応する。  |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |  |                       |  | ○                     |                       |              |
|                            | 達成度   | 学習相談件数897件。環境学習をはじめ、県民のニーズに応じた情報提供や相談への対応ができた。   |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 来庁者のニーズは多岐にわたるが、学習意欲や目的意識を高め、個人の実践につながるよう学習情報の提供、相談に応じている。    |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 県民が多く集まるイベントや研修会の場に「しが生涯学習スクエア」を出展することで、学習情報の提供や学習相談活動の周知を図る。 |  |                       |  |                       |                       |              |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 84  | 所属名   | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |             |
| 事業名                        | 「地域の力を学校へ」推進事業                                |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 19  | 終了年度  | —                     |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | 連携・協力                 |                       |             |
|                            | 主な対象  | 学校  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 1,2,3,4,5             |                       |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 6,381   | 平成23年度                | 6,791  | 前年比<br>増減額            | ▲ 410                 |             |
| 事業内容                       | 概要  | 「しが学校支援センター」を設置し、地域の様々な人々や企業・団体が、それぞれの持つ豊富な知識や経験を生かして、環境学習など学校教育の場で活動できるしくみづくりを推進する。  |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 豊富な知識や経験を持つ地域の様々な人々や企業・団体等が学校で活躍できる仕組みづくりを行う。<br>学校支援ディレクターがコーディネートした学校数の目標 平成24年度:46校  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 滋賀県教育振興基本計画の成果・事業目標に示している。  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |             |
|                            | 効果の有無   |   |                       |  | ○                     | ○                     |             |
|                            | 達成度   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ディレクターがコーディネートした学校数 平成24年度:93校</li> <li>琵琶湖環境学習や節電学習などを積極的に周知し、連携授業を実施することができた。</li> </ul> |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 琵琶湖学習や節電学習など、専門的な知識や技能を持った支援者が、学校での連携授業を実施した。 |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 「学校支援メニュー」をより積極的に周知する。                        |   |                       |  |                       |                       |             |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 85  | 所属名   | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |
| 事業名                        | 子どもの体験活動の機会と場の充実  |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | 14  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野  | その他   |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |
|                            | 主な対象  | 市町等   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8,9                   |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 253   | 平成23年度                | 3,897  | 前年比<br>増減額            | ▲ 3,644               |
| 事業内容                       | 概要  | 「しが子ども体験活動実践交流会」において、地域において子どもの体験活動支援を行う者が集まり、事例発表や意見交流を通じて子どもたちの体験活動の充実や学校支援のための方策等について協議する。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標  | しが子ども体験活動実践交流会を年2回開催し、のべ80名の指導者・関係者の交流を図る。  |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠  | 近年の実績から年2回80名を想定して事業を計画しています。   |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     | ○                     |
|                            | 達成度   | 参加者へのアンケートからは95%以上が、「よかった」「すごくよかった」という回答を得ている。各種団体が集まり話せる大切な機会だと考える。                          |                       |  |                       |                       |
| <b>重点的な取組方向に基づく事業</b>      |   |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 通学合宿の活動の中で、自然のものを使った記念品作りなどをする中で環境についての学習を行った。                |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 参加者の満足度は高いものの、できるだけ会議を精査していく必要もあり、25年度からはより充実した内容で年間1回の開催を行う。 |   |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|---|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 86  | 所属名  | 教育委員会                 |  | 生涯学習課                 |                       |              |
| 事業名                        | 自然体験活動指導者養成事業   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | 22  | 終了年度   | -                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野  | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象  | 県民   |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,3,8,9               |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 900  | 平成23年度                | 2,656  | 前年比<br>増減額            | ▲ 1,756               |              |
| 事業内容                       | 概要  | 自然に親しむ体験活動等の教育的効果高めるとともに、子どもたちが安心・安全に体験活動を実施できるための指導者を養成することにより、青少年の自然体験活動を推進する。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標  | 20名以上の指導者を養成する。子どもたちに向き合う実践研修を、3回実施する。   |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠  | 自然体験活動指導者養成事業は国の委託事業で行っており、その基準として20名以上となっている。                                   |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等   | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無   | ○  |                       |  | ○                     |                       |              |
|                            | 達成度   | 24年度は国の委託(基礎編)が不採用であった。県費で行っている(実践編)のみ開催。参加者は22名。                                |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |              |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○   | 体験前<br>(目的をもつ)   | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 自然体験活動指導者養成事業の中で、野外炊飯や野外でのテント泊に関わる自然についての学習を行った。        |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 子ども同士の間関係づくりを効果的に支援する為の指導者養成をしが「心の冒険プログラム」(SMAP)を通して行う。 |  |                       |  |                       |                       |              |



庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |  |                       |  |                       |                       |              |
|----------------------------|--|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| NO                         | 87                                       | 所属名  | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |              |
| 事業名                        | 女性団体活動推進事業                               |  |                       |  |                       |                       |              |
| 開始年度                       | S24                                      | 終了年度   | —                     |  |                       |                       |              |
| 分類                         | 分野                                       | その他  |                       | 主たる<br>施策体系  | 人材育成等                 |                       |              |
|                            | 主な対象                                     | 県地域女性団体連合会                                     |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 8                     |              |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度                                   | 700  |                       | 平成23年度   | 700                   | 前年比<br>増減額            | 0            |
| 事業内容                       | 概要                                       | 女性や地域に関わる様々な現代的な学習課題に対する学習機会の充実のために研修事業等に補助する。 |                       |  |                       |                       |              |
| 事業目標                       | 目標                                       | 女性や地域に関わる様々な現代的な学習課題に対する学習機会の充実を図る。            |                       |  |                       |                       |              |
|                            | 根拠                                       | 年間を通じて石けん使用運動、環境美化活動を行っている。                    |                       |  |                       |                       |              |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系                                     | (1)人材育成等                                       | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無                                    |  |                       |  |                       |                       | ○            |
|                            | 達成度                                      | 例年各支部での活動も定着しており、地域での普及・啓発に努めておられる。            |                       |  |                       |                       | ☆☆(おおむね目標達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |  |                       |  |                       |                       |              |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ                                  | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) | ○            |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)                                 | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |              |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 地域において年間を通じて石けん使用運動、環境美化活動を行っており、定着している。 |  |                       |  |                       |                       |              |
| 今後の課題・方向性                  | 会員の高齢化に伴い、新たな会員の確保に努めている。                |  |                       |  |                       |                       |              |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 88   | 所属名                                       | 教育委員会 生涯学習課           |  |                       |                       |
| 事業名                        | 図書資料等購入事業  |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | S18  | 終了年度                                      | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野   | その他                                       |                       | 主たる<br>施策体系  | 情報の提供                 |                       |
|                            | 主な対象   | 県民  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 8                     |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 55,390                                    | 平成23年度                | 55,390   | 前年比<br>増減額            | 0                     |
| 事業内容                       | 概要   | 県民の求める多種・多様な学習ニーズに答えられるよう県立図書館の各種資料を充実する。 |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標   | 県民一人が年間に借りている図書の冊数:11冊                    |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠   | 県教育振興基本計画<br>成果指標・事業目標                    |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等                                  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       |  | ○                     |                       |
|                            | 達成度  | 県民の求める学習ニーズに応えるため、滋賀資料を含め、各種資料を充実した。      |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         | ○  | 第1段階<br>関心を持つ                             | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              |  | 体験前<br>(目的をもつ)                            | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 環境学習に対するきっかけづくりから、具体的対策の検討や実践をサポートするまで幅広く資料を収集・提供している。 |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 所蔵資料と県民ニーズのマッチングを図り、多様な方法での情報提供に努める。                   |   |                       |  |                       |                       |

## 庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |  |   |                       |  |                       |                       |
|----------------------------|--|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| NO                         | 89   | 所属名   | 教育委員会                 |  | 文化財保護課                |                       |
| 事業名                        | 文化財保存修理受託事業  |   |                       |  |                       |                       |
| 開始年度                       | S51  | 終了年度  | -                     |  |                       |                       |
| 分類                         | 分野   | 歴史と環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |
|                            | 主な対象   | 一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 | 2,3,4,6,8             |                       |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度   | 358,494   |                       | 平成23年度   | 274,433               | 前年比<br>増減額<br>84,061  |
| 事業内容                       | 概要   | 国・県指定の文化財建造物は、修理の際に健全な部分を再利用しながら守り伝えられてきた。こうしたことを建造物の保存修理の際に行う、現場見学会や小中高生による体験学習、また文化財講座を通して説明し、文化財保護への理解を深める。            |                       |  |                       |                       |
| 事業目標                       | 目標   | 各現場において、見学会を開催する。   |                       |  |                       |                       |
|                            | 根拠   |   |                       |  |                       |                       |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系   | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力 (6)普及啓発      |
|                            | 効果の有無  |   |                       |  | ○                     | ○                     |
|                            | 達成度  | 平成24年度国・県指定建造物保存修理現場の公開を、合計26回開催し、県民等が合計2,214人訪れた。現場公開において、所有者が修理に際して資材を大切に扱ってきた結果、今日まで維持されてきたことを説明し、文化財保護の理解が深まったと考えている。 |                       |  |                       |                       |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |  |   |                       |  |                       |                       |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |  | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |
| 体系的な自然体験学習の推進              | ○  | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  | 文化財建造物は、修理に際し健全な木材は極力再利用され、腐朽破損した木材のみ取り替えるという考え方のもと、資材が大切に扱われてきた。さらにそのことによって、文化財を取り巻く自然環境も守られてきたことを、修理現場の見学会を通して学習する機会を提供した。 |   |                       |  |                       |                       |
| 今後の課題・方向性                  | 修理現場は、見学場所が工事現場であるため、高所であることや施工との関係から公開の回数や見学者数が限られる。このような状況にあるが可能な限り、より多くの県民等に文化財保護を啓発できるよう工夫する。                            |   |                       |  |                       |                       |

庁内環境学習関連事業の進行管理のための個表

|                            |   |   |                       |  |                       |                       |             |
|----------------------------|---|---|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|-------------|
| NO                         | 90  | 所属名   | 教育委員会                 |  | 文化財保護課                |                       |             |
| 事業名                        | 琵琶湖文化 魅力発信プロジェクト(近江水と大地の遺産魅力発信事業)   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 開始年度                       | 23  | 終了年度  | 25                    |  |                       |                       |             |
| 分類                         | 分野  | 歴史と環境   |                       | 主たる<br>施策体系  | 普及啓発                  |                       |             |
|                            | 主な対象  | 一般  |                       | 対象の詳細<br>1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生(大学生)<br>5. 家族・親子 6. 地域・自治会 7. 職場・事業者<br>8. 一般・すべて 9. 指導者 |                       | 2,3,4,6,8             |             |
| 当初予算額<br>(千円)              | 平成24年度  | 5,018   | 平成23年度                | 5,000  | 前年比<br>増減額            | 18                    |             |
| 事業内容                       | 概要  | 滋賀の特質であり、「近江水の宝」のひとつである琵琶湖のさらなる情報発信を行う為に港と航路の歴史的な調査を実施し、活用につなげる。また、「近江水の宝」として選定した64の宝を中心に、観光振興の素材となるように事業テーマを設定し、活用事業を実施していく。                 |                       |  |                       |                       |             |
| 事業目標                       | 目標  | 講座、探訪ツアーなどの開催への参加者<br>年間2,000人  |                       |  |                       |                       |             |
|                            | 根拠  | 平成22年度実績の約3割増。  |                       |  |                       |                       |             |
| 実施結果や対象者・参加者への効果等の自己評価について | 施策体系  | (1)人材育成等  | (2)プログラム開発            | (3)場や機会づくり   | (4)情報の提供              | (5)連携・協力              | (6)普及啓発     |
|                            | 効果の有無   |   |                       | ○  | ○                     | ○                     | ○           |
|                            | 達成度   | 「近江水の宝」および大地の遺産の探訪等を17回(574人参加)、事業テーマに沿った講座や近江水の宝魅力発信講座等を11回(1,589人参加)開催し目標を超える参加を得るとともに、探訪用ブックレット(6種類:3,000部)、講座用ガイドブック(800部)を作成・配布し、活用を図った。 |                       |  |                       |                       | ☆☆☆(目標以上達成) |
| 重点的な取組方向に基づく事業             |   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 低炭素社会づくりに係る環境学習の推進         |   | 第1段階<br>関心を持つ   | 第2段階<br>対策を考える        | 第3段階<br>実践<br>(見える化)   | 第3段階<br>実践<br>(個人の実践) | 第3段階<br>実践<br>(周囲へ普及) |             |
| 体系的な自然体験学習の推進              |   | 体験前<br>(目的をもつ)  | 体験中<br>(人と自然の関わりを考える) | 体験後<br>(ふりかえり)   | 実践行動へ                 |                       |             |
| 重点施策にかかる具体的な内容<br>(上記の根拠)  |   |   |                       |  |                       |                       |             |
| 今後の課題・方向性                  | 引き続き、地元市町や団体などと連携して、近江水の宝64選のさらなる活用を図るとともに、新たに事業テーマに沿ったモデルルートの設定による探訪事業等を開催し、滋賀の文化財の一層の活用を図る。 |   |                       |  |                       |                       |             |